

2022年度 大学院文学研究科英文学専攻 シラバス

 西南学院大学大学院

講義科目一覧

イギリス文学特殊研究Ⅲ〔加藤 洋介〕	1
イギリス文学演習Ⅲ〔加藤 洋介〕	2
イギリス文学研究指導Ⅰ〔加藤 洋介〕	3
イギリス文学特殊研究Ⅴ〔一谷 智子〕	4
イギリス文学演習Ⅴ〔一谷 智子〕	5
イギリス文学特殊研究Ⅷ〔リチャード ホドソン〕	6
イギリス文学演習Ⅷ〔リチャード ホドソン〕	7
イギリス文学演習Ⅸ〔河原 真也〕	8
イギリス文学特殊研究Ⅸ〔河原 真也〕	9
イギリス文学特殊研究Ⅺ〔三宅 敦子〕	10
イギリス文学演習Ⅺ〔三宅 敦子〕	11
アメリカ文学特殊研究Ⅳ〔宮本 敬子〕	12
アメリカ文学演習Ⅳ〔宮本 敬子〕	13
アメリカ文学研究指導Ⅲ〔宮本 敬子〕	14
アメリカ文学特殊研究Ⅷ〔F.E. オスターハウス〕	15
アメリカ文学演習Ⅶ〔F.E. オスターハウス〕	16
アメリカ文学特殊研究Ⅹ〔藤野 功一〕	17
アメリカ文学演習Ⅹ〔藤野 功一〕	18
アメリカ文学研究指導Ⅱ〔藤野 功一〕	19
アメリカ文学学位論文指導Ⅱ〔藤野 功一〕	20
英語学特殊研究Ⅱ〔前田 雅子〕	21
英語学演習Ⅱ〔前田 雅子〕	22
英語学特殊研究Ⅲ〔藤本 滋之〕	23
英語学演習Ⅲ〔藤本 滋之〕	24
英語学研究指導Ⅱ〔藤本 滋之〕	25
英語学特殊研究Ⅴ〔伊藤 彰浩〕	26
英語学演習Ⅴ〔伊藤 彰浩〕	27
英語学研究指導Ⅲ〔伊藤 彰浩〕	28
英語学学位論文指導〔伊藤 彰浩〕	29
英語学特殊研究Ⅶ〔C.L. ドーハティ〕	30

英語学特殊研究Ⅷ〔C.L. ドーハティ〕	31
英語学演習Ⅶ〔C.L. ドーハティ〕	32
英語学特殊研究Ⅹ〔中西 弘〕	33
英語学演習Ⅸ〔中西 弘〕	34
コミュニケーション学特殊研究Ⅰ〔宮原 哲〕	35
コミュニケーション学演習Ⅱ〔宮原 哲〕	36
コミュニケーション学研究指導Ⅰ〔宮原 哲〕	37
コミュニケーション学特殊研究Ⅳ〔D.L. オルソン〕	38
コミュニケーション学演習Ⅳ〔D.L. オルソン〕	39
コミュニケーション学特殊研究Ⅴ〔清宮 徹〕	40
コミュニケーション学演習Ⅴ〔清宮 徹〕	41
コミュニケーション学特殊研究Ⅸ〔山元 里美〕	42
コミュニケーション学特殊研究Ⅺ〔Justyna Weronika Kasza〕	43
応用日本語研究Ⅱ〔Justyna Weronika Kasza〕	44
英語学特殊研究Ⅺ〔横溝 紳一郎〕	45
英語学演習Ⅺ〔横溝 紳一郎〕	46
応用日本語研究Ⅰ〔山田 智久〕	47
英語学特殊研究ⅩⅢ〔山田 智久〕	48
英語学演習ⅩⅢ〔山田 智久〕	49

2022年度 大学院シラバス

文学研究科 英文学専攻

講義科目名	イギリス文学特殊研究Ⅲ	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期	2	日本語
担当教員名	加藤洋介			
【講義の到達目標及びテーマ】				
目標は次の通り。(1)同時代作家のJ・M・クッツェーのテキストを精読し、文学研究の方法と意義の理解を深めること、(2)クッツェーの主題を論じ、その文学世界を分析することで、同時代のポストコロニアル文学について理解を深めること、(3)文学研究の理論的手続きについて理解を深めること。				
【講義概要】				
同時代のポストコロニアル文学について大ざっぱに解説したあと、テキストを精読する。英語を正確に読むことを重視し、解釈について時間をかけて議論する。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	オリエンテーション、文献案内			
2	ポストコロニアル文学について			
3	Michael K——キー・イメージ			
4	Michael K——文体			
5	Michael K——言語			
6	Michael K——視点			
7	Michael K——先行作品			
8	Michael K——道の主題			
9	Michael K——時間			
10	Michael K——象徴			
11	Michael K——世界観			
12	Michael K——文学理論			
13	Michael K——作品全体の解釈			
14	Michael K——まとめ			
【テキスト】				
J. M. Coetzee, <i>Life and Times of Michael K</i> (Vintage, 1998)				
【参考書・参考資料等】				
初回の講義で文献リストを配布する。				
【事前・事後学習、時間等】				
テキストを読み、解釈し、議論の準備をすること(2時間程度)。				
【課題の種類・内容】				
プレゼンテーション				
【課題に対するフィードバックの方法】				
口頭で指示する。				
【成績評価方法・基準】				
プレゼンテーション(80)とディスカッション(20)によって評価する。				
【履修上の注意】				
テキストを入手しておくこと。				

2022年度 大学院シラバス

文学研究科 英文学専攻

講義科目名	イギリス文学演習Ⅲ	通年・前期・後期	単位数	使用言語	
		通年	4	日本語	
担当教員名	加藤洋介				
【講義の到達目標及びテーマ】					
目標は次の通り。(1)同時代作家ジョン・バンヴィルのテキストを精読し、語彙研究の意義を理解させ、テキストの分析と解釈の技術を習得すること、(2)バンヴィルのテキストをマニエリスム美学の実践としてとらえ、マニエリスムについての理解を深めること、(3)文学研究の意義と役割について理論的に考えること。					
【講義概要】					
まずバンヴィルの独自の美学と文体について解説し、次にテキストを精読する。英語を正確に読むことを重視する。前期はバンヴィルの代表作 <i>The Sea</i> を、後期は <i>Athena</i> を扱う。最終的にレポートをまとめさせ、レポートの書き方について指導する。					
【講義計画内容】					
No.	講義計画	(担当者)	No.	講義計画	(担当者)
1	オリエンテーション		15	オリエンテーション	
2	バンヴィルの美学と言語		16	バンヴィルの美学と言語	
3	<i>The Sea</i> —— キー・イメージ		17	<i>Athena</i> —— キー・イメージ	
4	<i>The Sea</i> —— 文体		18	<i>Athena</i> —— 文体	
5	<i>The Sea</i> —— 多義性		19	<i>Athena</i> —— 多義性	
6	<i>The Sea</i> —— 視点		20	<i>Athena</i> —— 視点	
7	<i>The Sea</i> —— 沈黙の主題		21	<i>Athena</i> —— 沈黙の主題	
8	<i>The Sea</i> —— アナモルフォーズ		22	<i>Athena</i> —— アナモルフォーズ	
9	<i>The Sea</i> —— 時間		23	<i>Athena</i> —— 時間	
10	<i>The Sea</i> —— 幻想の主題		24	<i>Athena</i> —— 幻想の主題	
11	レポートの書き方指導		25	レポートの書き方指導	
12	<i>The Sea</i> —— 美術		26	<i>Athena</i> —— 美術	
13	<i>The Sea</i> —— 絵画と文学の並行現象		27	<i>Athena</i> —— 絵画と文学の並行現象	
14	<i>The Sea</i> —— 結末を読む		28	<i>Athena</i> —— 結末を読む	
【テキスト】					
John Banville, <i>The Sea</i> (Vintage, 2005), John Banville, <i>Athena</i> (Vintage, 1995)					
【参考書・参考資料等】					
初回の講義で文献リストを配布する。					
【事前・事後学習、時間等】					
予習して受講すること。多数の文献を紹介しながら進めるので、図書館を積極的に利用し、講義の理解を補うこと。					
【課題の種類・内容】					
プレゼンテーション、レポート					
【課題に対するフィードバックの方法】					
レポートを添削して返却する。					
【成績評価方法・基準】					
プレゼンテーション(50)とレポート(50)によって評価する。					
【履修上の注意】					
テキストを入手しておくこと。					

2022年度 大学院シラバス

文学研究科 英文学専攻

講義科目名	イギリス文学研究指導I	通年・前期・後期	単位数	使用言語	
		通年	4	日本語	
担当教員名	加藤洋介				
【講義の到達目標及びテーマ】					
大きな目標は、すぐれた文学研究者の養成である。この目標のために、具体的に次の3点をめざす。(1)英語文学のテキストを読むための英語、文体、批評理論の知識的次元で深めること、(2)文学研究の理論の歴史を理解させ、同時代の批評風土を考えさせること、(3)英語文学研究の成果を社会に還元する意識を涵養し、研究の公表が研究者の公的義務であることを理解させ、公表のスキルを習得させること。					
【講義概要】					
D. H.ロレンスのテキスト『息子と恋人』をテキストとして、まずテキストを精読し、解釈する。次に『息子と恋人』批評史を解説し、主要な論文を論じることで文学研究の理論とアプローチについて理解させる。その後、一次資料の調査方法について図書館で説明し、文学研究の情報の収集について理解させた後、『息子と恋人』についての論文を作成させる。					
【講義計画内容】					
No.	講義計画	(担当者)	No.	講義計画	(担当者)
1	オリエンテーション、文献案内		15	『息子と恋人』のリアリズム	
2	『息子と恋人』第1章		16	ロレンスの伝記	
3	『息子と恋人』第2章		17	フェミニズム批評	
4	『息子と恋人』第3章		18	精神分析批評	
5	『息子と恋人』第4章		19	マルクス主義批評	
6	『息子と恋人』第5章		20	批評のパラダイムについて	
7	『息子と恋人』第6章		21	研究のアプローチについて	
8	『息子と恋人』第7章		22	論文の主題を考える	
9	『息子と恋人』第8章		23	一次資料	
10	『息子と恋人』第9章		24	一次資料	
11	『息子と恋人』第10章		25	論文の文体と言語	
12	『息子と恋人』第11章		26	段落構成	
13	『息子と恋人』第12章		27	段落構成	
14	『息子と恋人』第13章		28	プレゼンテーション	
【テキスト】					
D. H. Lawrence, <i>Sons and Lovers</i> (Penguin Classics)					
【参考書・参考資料等】					
初回の講義で文献リストを配布する。					
【事前・事後学習、時間等】					
事前に必ずテキストを読み、分析し、議論の準備を行なうこと(2時間程度)。					
【課題の種類・内容】					
プレゼンテーション、論文(8000字)					
【課題に対するフィードバックの方法】					
個別指導を行なう。					
【成績評価方法・基準】					
プレゼンテーション(40)と論文(60)で評価する。					
【履修上の注意】					
テキストを入手しておくこと。					

2022年度 大学院シラバス

文学研究科 英文学専攻

講義科目名	イギリス文学特殊研究Ⅴ	通年・前期・後期 後期	単位数 2	使用言語 日本語
担当教員名	一谷 智子			
【講義の到達目標及びテーマ】				
本講義は、次の3点を目標とする。(1)20世紀後半における地球環境の破壊に対する危機意識を背景に形成された文学・文化批評であるエコクリティシズム(環境批評)への理解を深める。(2)エコクリティシズムの可能性と課題について考察する。(3)エコクリティシズムを用いて作品分析を行う。				
【講義概要】				
エコクリティシズム/環境批評は、生態学的諸概念や哲学などに見られるエコロジカルな思想を取り入れ、文学を環境、人間、社会の関係から読み分析する文学批評のジャンルである。イギリスの田園文学の伝統、アメリカのネーチャーライティングの系譜など、英語圏の文学において「環境」はもっとも重要なテーマであり続けてきた。本講義では、エコクリティシズム/環境批評の方法論を学び、環境危機に直面する現代社会にとって新たな価値の源泉となりうる環境を主題とする文学について考察を深める。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	INTRODUCTION (エコクリティシズムの意義について考える)			
2	ECOCRITICISM'S DEVELOPMENT (エコクリティシズムの歴史と変遷について)			
3	IMAGINATION OF PLACE: FROM LOCAL TO GLOBAL (場所の概念とエコクリティシズムの関係について、ローカルな環境問題はグローバルな環境問題に結びついていることを理解する)			
4	LITERATURE, SCIENCE, ENVIRONMENT (エコクリティシズ・文学批評と自然科学の関係性について知り、具体的な文学作品について学ぶ)			
5	GENDER (エコフェミニズムについて知り、具体的な文学作品について学ぶ)			
6	(POST)COLONIALISM (エコクリティシズムとポストコロニアリズムの関係性について知り、具体的な文学作品について学ぶ)			
7	INDIGENEITY (エコクリティシズムに見られる先住民的価値観への関心について知り、具体的な文学作品の事例について学ぶ)			
8	IMAGINING NONHUMANS: ECOCRITICISM AND ANIMAL STUDIES (エコクリティシズムと動物論、ノンヒューマンの概念について知り、具体的な文学作品の事例について学ぶ)			
9	ENVIRONMENTAL JUSTICE (「環境正義」の概念について知り、具体的な文学作品の事例について学ぶ)			
10	ANTHROPOCENE (「人新世」の概念について考察を深める)			
11	MUSIC (環境音楽について、その事例とともに学ぶ)			
12	FILM (環境問題を描いた映像作品を分析する)			
13	ART (環境芸術についてその事例とともに学ぶ)			
14	プレゼンテーション(エコクリティシズを実際に用いて選んだテキストの分析をまとめプレゼンテーションを行う)			
【テキスト】				
Lawrence Buell, Ursula K. Heise, and Karen Thornber, "Literature and Environment," Annual Review of Environment and Resources 36 (2011) 講義で取り扱うこちらの論文に関しては、講義の初回に印刷したものを配布します。				
【参考書・参考資料等】				
Lawrence Buell, The Future of Environmental Criticism (Blackwell Publishing, 2005), Greg Garrard, Ecocriticism (Routledge, 2004), Glotfelty, Cheryl, and Harold Fromm, eds. The Ecocriticism Reader: Landmarks in Literary Ecology. Athens: U of Georgia P, 1996. ハロルド・フロム、ポーラ・G・アレン、ローレンス・ビュエル他『緑の文学批評—エコクリティシズム』伊藤詔子、横田由理、吉田美津他訳(松柏社、1998)。エコクリティシズム研究会『オールタナティブ・ヴォイスを聴く: エスニシティとジェンダーで読む』(音羽書房鶴見書店、2011)・ジョナサン・ベイト『ロマン派のエコロジー—ワーズワスと環境保護の伝統』小田友弥、石幡直樹訳(松柏社、2000[原著:1991])				
【事前・事後学習、時間等】				
毎回の指定範囲を精読して授業に臨んでください。担当者を決めて、内容をまとめた発表を中心に進めるので、受講者の主体的かつ積極的な関与が望まれます。				
【課題の種類・内容】				
担当箇所の発表(プレゼンテーション)、レポート				
【課題に対するフィードバックの方法】				
プレゼンテーションへのフィードバックは、授業中に直接行います。レポートは添削して返却します。				
【成績評価方法・基準】				
講義への参加と貢献(20%)、プレゼンテーション(30%)とレポート(50%)によって評価します。				
【履修上の注意】				
授業での資料や課題の提示・提出、必要事項の連絡はMoodleを通じて行います。こまめにチェックするようにしてください。				

2022年度 大学院シラバス

文学研究科 英文学専攻

講義科目名	イギリス文学演習Ⅴ		通年・前期・後期	単位数	使用言語
			後期	4	日本語
担当教員名	一谷 智子				
【講義の到達目標及びテーマ】					
英語文学作品の精読を通して、現代社会を読み解くための思想と文学批評について理解を深めると同時に、文学研究の基礎となる分析技術を習得することを目標とする。本講義は、「難民文学」をテーマとし、イランからオーストラリアへの亡命者でクルド人の作家Behrouz Boochaniの自伝的小説 <i>No Friend But the Mountains</i> (2018)を取り上げる。戦後最大の難民危機に直面する世界において、難民はただ「数」として認識され、ひとりひとりの人間が背負う個別の生と物語は遺棄される。そうした人間の尊厳を奪う暴力に抗する文学的想像力についても考察を深める。					
【講義概要】					
難民の受け入れや定住支援において、オーストラリアは先進国の中では実績を有する国家のひとつである。その一方で近年、同政府は庇護を求めて密航船上陸を試みる人々、いわゆるボートピープルに対する国境管理を強化してきた。 <i>No Friend but the Mountains</i> は、オーストラリア政府が国外に設けた難民収容施設に収容されたクルド人作家が、携帯のメッセージアプリを使ってペルシャ語で執筆し、支援者である哲学者Omid Tofighianによって英語に翻訳された作品である。無期限の拘置を言い渡され精神を病むような生活を克明に描いたジャーナリズム性に加えて、詩やクルド神話、哲学的思索を織り交ぜた重層的文学性を持つ本作は2019年のビクトリア州首相文学賞に輝き、国際的に話題となった。本講義では、テキストを精読し、本書があぶり出す先住民の抑圧から現代の難民政策に至る植民地主義的支配の性質と構造について考えてみたい。					
【講義計画内容】					
No.	講義計画	(担当者)	No.	講義計画	(担当者)
1	Introduction: オーストラリアの移民政策と作品の背景について		15	7. The Oldman Generator / The Prime Minister and His Daughters (pp.178-192)	
2	Richard FlanaganによるForewordを読む		16	8. Queuing as Torture: Manus Prison Logic / The Happy Cow (pp.193-205)	
3	Translator's Tale 翻訳者による解説 (pp.4-12)		17	8. Queuing as Torture: Manus Prison Logic / The Happy Cow (pp.206-222)	
4	Translator's Tale 作品の構造と哲学性について (pp.13-24)		18	9. Father's Day / The Magnificent Mango Tree and The Gentle Giant (p.223-231)	
5	1. Under Moonlight/ The Colour of Anxiety (pp.26-36)		19	9. Father's Day / The Magnificent Mango Tree and The Gentle Giant (pp.231-242)	
6	2. Mountains and Waves / Chestnuts and Death/ That River ... This Sea (pp.37-47)		20	10. Chanting of Crickets, Ceremonies of Cruelty / A Mythic Topography of Manus Prison (pp.243-255)	
7	2. Mountains and Waves / Chestnuts and Death/ That River ... This Sea (pp.47-64)		21	10. Chanting of Crickets, Ceremonies of Cruelty / A Mythic Topography of Manus Prison (pp.255-263)	
8	3.The Raft of Purgatory / Moons Will Tell Terrible Truths (pp.65-81)		22	10. Chanting of Crickets, Ceremonies of Cruelty / A Mythic Topography of Manus Prison (pp.263-276)	
9	4. The Warship Meditations / Our Golshifteh Is Truly Beautiful (pp.82-97)		23	10. Chanting of Crickets, Ceremonies of Cruelty / A Mythic Topography of Manus Prison (pp.276-286)	
10	5. A Christmas (Island) Tale / A Stateless Rohingya Boy Sent Away to Follow the Star of Exile (pp.98-114)		24	11. The Flowers Resembling Chamomile / Infection: Manus Prison Syndrome (pp.287-299)	
11	5. A Christmas (Island) Tale / A Stateless Rohingya Boy Sent Away to Follow the Star of Exile (pp.114-132)		25	11. The Flowers Resembling Chamomile / Infection: Manus Prison Syndrome (pp.299-316)	
12	6. The Wandering Kowlis Perform / The Barn Owls Watch (pp.133-143)		26	12. In Twilight / The Colours of War (pp. 317-327)	
13	6. The Wandering Kowlis Perform / The Barn Owls Watch (pp.144-157)		27	12. In Twilight / The Colours of War (pp. 327-345)	
14	7. The Oldman Generator / The Prime Minister and His Daughters (pp.158-178)		28	No Friend but the Mountains: Translator's Reflections (pp.346-358)	
【テキスト】					
Behrouz Boochani, <i>No Friend but the Mountains: Writing from Manus Prison</i> (Picador 2018)					
【参考書・参考資料等】					
関根政美、塩原良和ほか編著『オーストラリア多文化社会論—移民・難民・先住民との共生をめざして』(法律文化社 2020年)					
【事前・事後学習、時間等】					
毎回の指定範囲を精読して授業に臨んでください。担当者を決めて、内容をまとめた発表を中心に進めるので、受講者の主体的かつ積極的な関与が望まれます。					
【課題の種類・内容】					
毎回、担当者が指定された範囲について口頭発表を行う形式で授業を進めます。(1)ハンドアウトを作成し口頭発表を行うこと、(2)学期末レポートが課題として課されます。					
【課題に対するフィードバックの方法】					
発表に関しては授業内で口頭で行い、レポートに関しては添削をして返却します。					
【成績評価方法・基準】					
口頭発表(40%)とレポート(60%)					
【履修上の注意】					
授業内での連絡や資料の提示にはMoodleを使用します。こまめにチェックしておいてください。					

2022年度 大学院シラバス

文学研究科 英文学専攻

講義科目名	イギリス文学特殊研究VIII	通年・前期・後期 後期	単位数 2	使用言語 英語
担当教員名	R.J. ホドソン			
【講義の到達目標及びテーマ】				
This course will provide a comprehensive study of English lyrical poetry of the 17th century, focusing on: 1) close readings of individual poems; and 2) their historical, cultural, and intellectual context.				
【講義概要】				
Much English lyrical and religious non-narrative verse in the seventeenth century is viewed as belonging to either the metaphysical tradition (exemplified by the poetry of John Donne) or the school of the cavaliers (influenced by the poetry of Ben Jonson). In this course, we will explore poems by writers from both of these groups, including some seen as belonging to both, as well as discovering the intellectual, cultural, philosophical, and religious concepts required to appreciate them. As well as making regular small presentations on individual poems to guide class discussion, you will follow your own interests in reading English metaphysical and cavalier poems independently, as the basis of your final research presentation and report.				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	Course introduction: Reading an English Renaissance poem			
2	Background: Poetry of the Elizabethan Renaissance (1) – William Shakespeare			
3	Background: Poetry of the Elizabethan Renaissance (2) – Edmund Spenser and Philip Sidney			
4	Metaphysical poetry (1): John Donne's Songs and Sonnets (1)			
5	Metaphysical poetry (2): John Donne's Songs and Sonnets (2)			
6	Metaphysical poetry (3): John Donne's Holy Sonnets			
7	Metaphysical poetry (4): George Herbert			
8	Metaphysical poetry (5): Andrew Marvell			
9	Metaphysical poetry (6): Henry Vaughan			
10	Metaphysical poetry (7): The later metaphysicals			
11	The "father" of the cavalier poets: poems by Ben Jonson			
12	Cavalier poetry (1): Robert Herrick and John Suckling			
13	Cavalier poetry (2): Thomas Carew and Richard Lovelace			
14	Final presentations			
【テキスト】				
Metaphysical Poetry, ed. Colin Burrow (Penguin, 2006)				
【参考書・参考資料等】				
Extracts from other poems and reference materials will be provided in class.				
【事前・事後学習、時間等】				
Students will be required to: 1) prepare for detailed close readings of selected individual poems in class analysis and discussion; 2) familiarise themselves with the intellectual context of these poems.				
【課題の種類・内容】				
Students will be required to: 1) apply the close-reading skills and intellectual context acquired in class to other 16th and 17th-century poems of their own choice; 2) prepare a broader analysis of wider range of poems for discussion in a final paper, with appropriate support from critical texts.				
【課題に対するフィードバックの方法】				
Oral feedback will be given on class-presentations and discussion, with oral and written feedback on papers and reports.				
【成績評価方法・基準】				
Weekly presentations and participation in class discussions: 40%; final presentation and paper: 60%				
【履修上の注意】				
Students should be sure that they have sufficient English ability to read and discuss challenging poems in English.				

2022年度 大学院シラバス

文学研究科 英文学専攻

講義科目名	イギリス文学演習VIII	通年・前期・後期	単位数	使用言語	
		通年	4	英語	
担当教員名	R.J. ホドソン				
【講義の到達目標及びテーマ】					
This course will provide a comprehensive and multi-textual study of a contemporary English novel, focusing on: 1) its contested status as a “fantasy” text; 2) its allegorical techniques; and 3) its use of sources and influences from medieval English literature.					
【講義概要】					
Kazuo Ishiguro’s seventh novel, <i>The Buried Giant</i> , sparked a debate over the role of fantasy in “literary” fiction and is also notable for its use of allegory, and its use of a setting and characters from the medieval tradition. After studying the novel with these issues in mind, students will (in the second semester of the course) pursue individual research into the deployment of allegory and/or medieval sources in other contemporary English fictional texts.					
【講義計画内容】					
No.	講義計画	(担当者)	No.	講義計画	(担当者)
1	Context (1): Ishiguro and his work		15	<i>The Buried Giant</i> (III: Chapter 13)	
2	Context (2): Allegory and medieval literature		16	<i>The Buried Giant</i> (III: Gawain’s Second Reverie)	
3	<i>The Buried Giant</i> (I: Chapter 1)		17	<i>The Buried Giant</i> (IV: Chapter 15)	
4	<i>The Buried Giant</i> (I: Chapter 2)		18	<i>The Buried Giant</i> (IV: Chapter 16)	
5	<i>The Buried Giant</i> (I: Chapter 3)		19	<i>The Buried Giant</i> (IV: Chapter 17)	
6	<i>The Buried Giant</i> (I: Chapter 4)		20	<i>The Buried Giant</i> and medieval literature	
7	<i>The Buried Giant</i> (I: Chapter 5)		21	<i>The Buried Giant</i> and Sir Gawain	
8	<i>The Buried Giant</i> (II: Chapter 6)		22	<i>The Buried Giant</i> and King Arthur	
9	<i>The Buried Giant</i> (II: Chapter 7)		23	<i>The Buried Giant</i> as fantasy	
10	<i>The Buried Giant</i> (II: Chapter 8)		24	<i>The Buried Giant</i> as allegory	
11	<i>The Buried Giant</i> (III: Gawain’s First Reverie)		25	Individual research writing workshop	
12	<i>The Buried Giant</i> (III: Chapter 10)		26	Submission of research paper drafts	
13	<i>The Buried Giant</i> (III: Chapter 11)		27	Feedback on research paper drafts	
14	<i>The Buried Giant</i> (III: Chapter 12)		28	Final research presentations	
【テキスト】					
Kazuo Ishiguro, <i>The Buried Giant</i> (Vintage International, 2016)					
【参考書・参考資料等】					
Simon Armitage (trans.) <i>Sir Gawain and the Green Knight: A New Verse Translation</i> (Norton, 2008) Simon Armitage (trans.) <i>The Death of King Arthur</i> (Faber & Faber, 2012)					
【事前・事後学習、時間等】					
Students will be required to: 1) prepare for detailed close readings of selected individual texts in class analysis and discussion; 2) familiarise themselves with the intellectual context of these texts to aid class discussion.					
【課題の種類・内容】					
Weekly presentations and participation in class discussions: 40%; final presentation and research paper: 60%					
【課題に対するフィードバックの方法】					
Oral feedback will be given on class-presentations and discussion, with oral and written feedback on papers and reports.					
【成績評価方法・基準】					
Weekly presentations and participation in class discussions: 40%; final presentation and research paper: 60%					
【履修上の注意】					
Students should be sure that they have sufficient English ability to read and discuss a contemporary English novel, as well as narrative verse and other literary and critical texts in English.					

2022年度 大学院シラバス

文学研究科 英文学専攻

講義科目名	イギリス文学演習Ⅸ	通年・前期・後期		単位数	使用言語
		前期		4	日本語
担当教員名	河原真也				
【講義の到達目標及びテーマ】					
作品の精読を主眼として、論点の設定の仕方やどう作品を解釈すべきかを学ぶ。特に本演習では英語による先行研究をおさえることを重視し、指定した文献以外にもデータベースやオンライン・ソースを活用しながら、作品を読み解いていく。					
【講義概要】					
James Joyce (1882-1941)の短編集 <i>Dubliners</i> (1914)を題材として、作品の読解と分析、先行研究(英語文献)の確認、論文執筆を行う。					
【講義計画内容】					
No	講義計画				
1	Introduction & "The Sisters"講読		15	"Counterparts"講読	
2	"The Sisters"の先行研究について		16	"Counterparts"の先行研究について	
3	"An Encounter" & "Araby" 講読		17	"Clay"講読	
4	"An Encounter" & "Araby"の先行研究について		18	"Clay"の先行研究について	
5	"Eveline"講読		19	"A Painful Case"講読	
6	"Eveline"の先行研究について		20	"A Painful Case"の先行研究について	
7	"After the Race"講読		21	"Ivy Day in the Committee Room"講読	
8	"After the Race"の先行研究について		22	"Ivy Day ... "の先行研究について	
9	"Two Gallants"講読		23	"A Mother"講読	
10	"Two Gallants"の先行研究について		24	"A Mother"の先行研究について	
11	"The Boarding House"講読		25	"Grace"講読	
12	"The Boarding House"の先行研究について		26	"Grace"の先行研究について	
13	"A Little Cloud"講読		27	"The Dead"講読	
14	"A Little Cloud"の先行研究について		28	"The Dead"の先行研究について	
【テキスト】					
James Joyce, <i>Dubliners</i> (Norton Critical Editions, 2006)					
【参考書・参考資料等】					
Don Gifford, <i>Joyce Annotated: Notes for Dubliners and A Portrait of the Artist as a Young Man</i> . (U of California Press, 1982)					
【事前・事後学習、時間等】					
毎週作品の担当者を決めて、口頭発表をしてもらう。事前準備に90-120分程度要する。					
【課題の種類・内容】					
口頭発表と期末に課されるレポート					
【課題に対するフィードバックの方法】					
口頭発表についてはその場で口頭で行い、期末レポートに対してはコメントを付して返却する。					
【成績評価方法・基準】					
レポート(40%)、プレゼンテーション(40%)、討議への貢献度(20%)によって評価を下す。					
【履修上の注意】					
担当教員が在外研究に従事するため、前期に週2回授業を実施する。 テキストの <i>Dubliners</i> については必ず指定したNorton版を購入すること。					

2022年度 大学院シラバス

文学研究科 英文学専攻

講義科目名	イギリス文学特殊研究IX	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期	2	日本語
担当教員名	河原真也			
【講義の到達目標及びテーマ】				
文学(演劇)作品や批評論文の精読により、作品の舞台となった社会状況や作者の思想的背景について目を向けながら、作品の問題点を抽出すると同時に、それについて自分の主張を論理的に展開する訓練を行う。				
【講義概要】				
本講義ではアイルランド文芸復興運動の諸相について考察することを目標とする。20世紀初頭にアビー一座で上演された、W. B. Yeats、J. M. Syngeらの戯曲を検証対象として、アイルランド独立運動に大きく寄与することとなった文化ナショナリズムの一端について考察を加える。作品理解の一助となるよう、適宜映像化された演劇作品やアイルランドの研究者による映像資料を活用していく。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	イントロダクション：アイルランド文芸復興とは？			
2	W. B. Yeats, <i>Catheleen Ni Houlihan</i>			
3	Lady Gregory, <i>Spreading the News</i>			
4	Lady Gregory, <i>The Rising of the Moon</i>			
5	J. M. Synge, <i>Riders to the Sea</i>			
6	J. M. Synge, <i>The Shadow of the Glen</i>			
7	J. M. Synge, <i>The Playboy of the Western World</i> : Act 1 & 2: アイルランドの「西部」			
8	J. M. Synge, <i>The Playboy of the Western World</i> : Act 3、The Arran Islands: 女性像の比較			
9	Bernard Shaw, <i>John Bull's Other Island</i> : Act 1-2: 20世紀初頭のアイルランド			
10	Bernard Shaw, <i>John Bull's Other Island</i> : Act 3-4: ナショナリズムとアイルランド英語			
11	Sean O'Casey, <i>Juno and the Paycock</i> : Act 1 & 2: ダブリンの労働者階級			
12	Sean O'Casey, <i>Juno and the Paycock</i> : Act 3: イースター蜂起			
13	Douglas Hyde, "The Necessity for De-Anglicising"			
14	Colm Toibin's "The Irish Literary Renaissance"			
【テキスト】				
John P. Harrington (ed.), <i>Modern Contemporary Irish Drama</i> (Norton Critical Editions, 2008)				
【参考書・参考資料等】				
Sanford Sternlich, <i>Modern Irish drama : W.B. Yeats to Marina Carr</i> (Syracuse Univ. Press, 2010) 杉山寿美子『アベイ・シアター1904-2004』(研究社, 2004年)				
【事前・事後学習、時間等】				
毎週作品の担当者を決めて、口頭発表をしてもらう。担当でない受講者は発表者の発表内容をもとにした討議に参加することが求められる。事前準備に90-120分程度要する。				
【課題の種類・内容】				
担当箇所の口頭発表と期末に課されるレポート				
【課題に対するフィードバックの方法】				
口頭発表についてはその場で口頭で行い、期末レポートに対してはコメントを付して返却する。				
【成績評価方法・基準】				
レポート(40%)、プレゼンテーション(40%)、討議への貢献度(20%)によって評価を下す。				
【履修上の注意】				
テキストを各自購入のうえ、初回授業時に持参すること。				

2022年度 大学院シラバス

文学研究科 英文学専攻

講義科目名	イギリス文学特殊研究XI	通年・前期・後期 後期	単位数 2	使用言語 日本語
担当教員名	三宅 敦子			
【講義の到達目標及びテーマ】 自立した研究者としてのヴィクトリア朝(19世紀)英文学研究を可能にするために、(1)ヴィクトリア朝イギリス文学研究の代表的な研究者による先行研究を概観し、(2)ヴィクトリア朝文学について論文を執筆する際に取りうる研究アプローチとテーマとなりうる問題全般についての理解を深める。				
【講義概要】 ヴィクトリア朝イギリス文学の諸相について解説した入門的論文を演習形式で精読することで、ヴィクトリア朝イギリス文学の分野で現在一般的となっている研究アプローチや代表的な研究テーマに親しむ。毎回の講義では各章の内容の理解確認をすると同時に、精読に必要な下調べの仕方などリサーチ方法も身につけてほしい。最終的には講義で学んだアプローチやテーマのうち一つを取り上げ、各自が選択した小説に関する応用実践としてミニ論文を仕上げる。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	オリエンテーション(これまでの学びの確認)およびIntroduction			
2	1. The Victorian novel and its readers			
3	2. The business of Victorian publishing			
4	3. A history of criticism of the Victorian novel			
5	4. Victorian realism			
6	5. Intellectual debate in the Victorian novel: religion and science			
7	6. Race and the Victorian novel			
8	7. Social class and the Victorian novel			
9	8. When gender meets sexuality in the Victorian novel			
10	9. Victorian feeling			
11	10. Sensation and the fantastic in the Victorian novel			
12	11. The transatlantic novel in the nineteenth century			
13	実践研究発表(学生によるプレゼンテーション)及びディスカッション			
14	【まとめ】ヴィクトリア朝イギリス文学研究に頻出する研究テーマとアプローチ			
【テキスト】 Deirdre David, ed. <i>The Cambridge Companion to the Victorian Novel</i> . 2nd Edition (Cambridge UP, 2012)				
【参考書・参考資料等】 テーマごとに異なるため、各回ごとに必要な参考資料等を紹介する。				
【事前・事後学習、時間等】 自立した研究者を目指す人のための授業であるので、発表者ではない回の授業で扱う章もきちんと精読してくる。毎回の授業で扱う章の精読および疑問点の下調べ(事前学習)と、学習内容のまとめレポート(事後学習)の提出を求める。これらの事前・事後学習には、学生の英語力により一回の授業につき、4～6時間を要する。				
【課題の種類・内容】 発表担当者: 担当する章の内容をまとめたレジュメを事前に準備する。それ以外の受講生: ムードルに掲載された発表担当者のレジュメを予習し、事前に質問を考えてくる。各回の授業は発表者の発表と、それ以外の学生の質問による議論で成立するので、各自発表者になったつもりでの予習が必要である。レジュメ等の作成目的には、日本語での論理的な文章作成に慣れるという目的も含まれる。				
【課題に対するフィードバックの方法】 受講生は発表用のレジュメや事後学習のまとめレポートを、毎回の授業前・終了後にムードルにアップロードして提出し、それに対し教員がムードル上でコメントをフィードバックする。				
【成績評価方法・基準】 発表(25%)、授業終了後のまとめレポート(25%)、授業での議論への貢献度(25%)、実践レポート(25%)で評価する。実践レポートについては、内容のみならず参考文献の引用の仕方など形式面も評価の対象とする。				
【履修上の注意】 初回からテキストを使用するので、事前に購入しておくこと。またムードルを多用するのでSAINSポータルにアクセスできるようにしておくこと。授業で扱う内容が広範囲であるので、特にこの分野について学んだことがない受講生にとっては、予習が大変な授業である。また最後に提出する実践レポートのために、個別の小説については、各自関心のある作家を中心に、授業の予復習とは別に自分で読んでおく必要があるため、総合的な事前・事後学習には相当な時間が必要な授業である。				

2022年度 大学院シラバス

文学研究科 英文学専攻

講義科目名	イギリス文学演習XI		通年・前期・後期 通年	単位数 4	使用言語 日本語
担当教員名	三宅 敦子				
【講義の到達目標及びテーマ】					
テーマ【ヴィクトリア朝イギリス文学作品の読み方】1. テキストを精読し、論文のテーマとなりうるポイントを自ら見つけることが出来るようになる。2. テキストの細部に潜む論点を、俯瞰的にみた作品全体の論点と統合させ、質の高い論文へと発展させることができるようになる。					
【講義概要】					
この授業ではヴィクトリア朝文学の代表的作品シャーロット・ブロンテの <i>Jane Eyre</i> を読む。精読形式で読み進めるが日本語訳を確認するのではなく、各章で問題となりうる表現を中心に議論する形式で授業を進める。そのためテキストの精読については毎回各自で事前にきちんと予習することが必要である。23－28回目については、それまでの授業で受講生が関心を持ったテーマを中心に作品全体について論じる。					
【講義計画内容】					
No.	講義計画	(担当者)	No.	講義計画	(担当者)
1	オリエンテーション(これまでの学びの確認)およびIntroduction		15	Volume 3, Ch.1 & Ch.2	
2	Volume 1, Ch.3 & Ch.4		16	Volume 3, Ch.3 & Ch.4	
3	Volume 1, Ch.5 & Ch.6		17	Volume 3, Ch.5 & Ch.6	
4	Volume 1, Ch.7 & Ch.8		18	Volume 3, Ch.7 & Ch.8	
5	Volume 1, Ch.9 & Ch.10		19	Volume 3, Ch.9 & Ch.10	
6	Volume 1, Ch.11 & Ch.12		20	Volume 3, Ch.11 & Ch.12	
7	Volume 1, Ch.13 & Ch.14		21	シャーロット・ブロンテの生涯と作品について	
8	Volume 1, Ch.15 およびVolume 1のまとめ		22	Introduction	
9	Volume 2, Ch.1 & Ch.2		23	<i>Jane Eyre</i> を論じてみよう 1	
10	Volume 2, Ch.3 & Ch.4		24	<i>Jane Eyre</i> を論じてみよう 2	
11	Volume 2, Ch.5 & Ch.6		25	<i>Jane Eyre</i> を論じてみよう 3	
12	Volume 2, Ch.7 & Ch.8		26	<i>Jane Eyre</i> を論じてみよう 4	
13	Volume 2, Ch.9 & Ch.10		27	<i>Jane Eyre</i> を論じてみよう 5	
14	Volume 2, Ch.11 およびVolume 2のまとめ		28	<i>Jane Eyre</i> を論じてみよう 6	
【テキスト】					
Charlotte Bronte著、Margaret Smith編、 <i>Jane Eyre</i> (Oxford World's Classics series, 3rd edition, Paperback) オックスフォード大学出版、2019年、ISBN：9780198804970 ￥1,089					
【参考書・参考資料等】					
授業の内容に合わせて適宜紹介する。					
【事前・事後学習、時間等】					
自立した研究者を目指す人のための授業であるので発表担当者を事前に決めることはしない。全員予習としてきちんと精読してること。毎回の授業で扱う章の精読および疑問点の下調べ(事前学習)と、学習内容のまとめレポート(事後学習)の提出を求める。これらの事前・事後学習には、学生の英語力により一回の授業につき、4～6時間を要する。					
【課題の種類・内容】					
課題は主として下記の二種。1. (事前学習)授業回ごとに取り組む予定の箇所の精読と疑問点などの整理。2. (事後学習)授業で学習した内容を自分の言葉でまとめMoodle上で提出。					
【課題に対するフィードバックの方法】					
Moodle上および授業内					
【成績評価方法・基準】					
授業での議論への貢献度(50%、ただし出席点ではないことに注意)、授業の最後に提出する作品論レポート(50%)で評価する。作品論レポートについては、内容のみならず参考文献の引用の仕方など形式面も評価の対象とする。					
【履修上の注意】					
初回からテキストを使用するので、事前に購入しておくこと。またムードルを多用するのでSAINSポータルにアクセスできるようにしておくこと。授業で読む小説は <i>Jane Eyre</i> のみであるが、他の作品との関連性も問題となるので、シャーロット・ブロンテの他の作品も併せて読むことが望ましい。そのため、特にこの分野について学んだことがない受講生にとっては、予習が大変な授業である。他の作品については授業の予復習とは別に自分で読んでおく必要があるため、総合的な事前・事後学習には相当な時間が必要となる。					

2022年度 大学院シラバス

文学研究科 英文学専攻

講義科目名	アメリカ文学特殊研究Ⅳ	通年・前期・後期 前期	単位数 2	使用言語 日本語
担当教員名	宮本敬子			
【講義の到達目標及びテーマ】				
現代アメリカを代表する作家トニ・モリスン (Toni Morrison) の The Bluest Eye (1970) をテキストに、1) 文学および批評テキストを読み解く英語力を高める2) 論理的思考方法を学び、文章および口頭で自分の意見を明確に伝える訓練をする 3) プレゼンテーションおよび論文作成を通して、アカデミックスキルを身につける、4) アメリカ社会における文化、歴史、思想についての理解を深める、ことを目標とする。				
【講義概要】				
The Bluest Eye は、1940年- 41年のオハイオ州ロレインを舞台に、黒人貧困家庭の少女ピコラの悲劇―白人優先社会の価値基準の無自覚な内面化によって、破滅に追いやられていく人生―を、中流家庭の同年代の黒人少女クローディアが語るという設定になっている。家庭の崩壊、人種差別と共同体、性と暴力、成長(通過儀礼)物語と女性による語り、などのテーマがどのように展開していくのかに注目する。視覚文化の圧倒的体制を人種的抑圧の場として認識し、それへの抵抗を追求してきたトニ・モリスンの想像力を読み解くと同時に、アフリカ系アメリカ人の歴史や文化に対する理解を深め、現代アメリカにおける人種問題について考察していく。				
【講義計画内容】				
No	講義計画			
1	Introduction:			
2	Autumn: Quiet as it kept, pp.7-23 語り手の問題について考える			
3	Autumn: Three quart of milk, pp.23-37 黒人貧困家庭とモイニハン報告			
4	Autumn: Here is the Family, pp.38-58 黒人ステレオタイプの問題			
5	Winter: My Daddy's Face, pp.61-80 白人主流社会における美の規範			
6	Winter: See the Cat, pp.81-93 大移住と北部における南部黒人			
7	Spring: The First Twigs, pp97-109 文化イデオロギー装置としてのハリウッド映画			
8	Spring: See Mother, pp110-131 文学テキストの人物造形を考える			
9	Spring: See Father, pp132-158 文学テキストのテーマ設定を考える			
10	Spring: Three Women, pp158-163 文学テキストのレトリックを考える			
11	Spring: See the Dog, pp164-183 文学テキストの文体・構造を考える			
12	Summer: I have only to, pp187-206 文学テキストの歴史的・文化的背景について考える			
13	Afterword: We had just started, pp209-216 文学テキストの思想・イデオロギーについて考える			
14	Summary and Discussion			
【テキスト】				
Toni Morrison, <i>The Bluest Eye</i> (1970. Vintage, 1999)				
【参考書・参考資料等】				
Toni Morrison, <i>The Mouth Full of Blood: Essays, Speeches, Meditations</i> (Vintage, 2020)他、授業時に適宜紹介する。				
【事前・事後学習、時間等】				
[事前](3時間程度)学生のプレゼンテーションを中心に進めていく予定だが、発表者以外はテキストを精読してくる。ポイントを詳しく解説し、疑問や問題点についてディスカッションするという形式で授業を進める。英文を精読し、コメントや質問を準備してくる。[事後](3時間程度)授業後は自分の関心のあるテーマに関係する箇所のノートを作成し、資料を収集するなどして、早めにレポート作成の準備をする。				
【課題の種類・内容】				
授業でのプレゼンテーション(資料作成と発表)・ディスカッション(積極的に参加し議論を深める)・期末レポート(論理構成および明瞭性を重視)				
【課題に対するフィードバックの方法】				
Moodleを通して行う。				
【成績評価方法・基準】				
授業でのプレゼンテーションと参加状況(50%)および期末レポート(50%)等で総合的に評価する。				
【履修上の注意】				

2022年度 大学院シラバス

文学研究科 英文学専攻

講義科目名	アメリカ文学演習Ⅳ		通年・前期・後期	単位数	使用言語
			通年	4	日本語
担当教員名	宮本敬子				
【講義の到達目標及びテーマ】					
アメリカ文学・思想史における古典であるW.E.B.デュボイス(W.E.B. Du Bois, 1868－1963)の『黒人のたましい』(The Souls of Black Folk、1903)と、公民権運動やポストコロニアリズム思想に多大な影響を与えたフランツ・ファノン(Franz Fannon)の『黒い皮膚、白い仮面』(Black Skin, White Masks, 1952)を読み、これらの古典的名著の現代的意義を探究する。					
【講義概要】					
デュボイスは『黒人のたましい』において、主流派文化に対する少数民族のメンバーの複合的意識を「二重意識」(double consciousness)という言葉で表現した。アフリカ系アメリカ人(黒人)の自己意識は、黒人に関する多数派(白人)による表象や要望によって形成され支配されている。この引き裂かれた自己意識を表す「二重意識」という言葉は、人種・民族、ジェンダーの観点からアメリカの文化的二重性へと適用され、現代文学・文化研究一般の重要な概念のひとつとなっている。約半世紀を経て、ファノンもまた植民地出身の黒人が白人世界において出会う現実と心理について、さまざまな側面から明らかにしている。テキストを丹念に読むことによって、両者の思想を読み解くと同時に、現代世界が今なお抱える人種問題について考察していく。					
【講義計画内容】					
No	講義計画	(担当者)	No	講義計画	(担当者)
1	Introduction: The Souls of Black Folk		15	Introduction: Black Skin, White Masks	
2	Chapter I: Of Our Spiritual Strivings		16	Chapter I:The Black Man and Language	
3	Chapter II: Of the Dawn of Freedom		17	Chapter II: The Woman of Color and the White Man	
4	Chapter III: Of Mr. Booker T. Washington and Others		18	Chapte III : The Woman of Color and the White Woman	
5	Chapter IV: Of the Meaning of Progress		19	Chapter IV: The So-Called Dependency Complex of the Colonized	
6	Chapter V: Of the Black Belt		20	Chapter V: The Lived Experience of the Black Man(1) Structure & Terminology	
7	Chapter VI: Of the Quest of Golden Fleece		21	Chapter V: The Lived Experience of the Black Man(1) Structure & Terminology	
8	Chapter VII: Of the Black Belt		22	Chapter V: The Lived Experience of the Black Man(2) Main points	
9	Chapter VIII: Of the Quest of Golden Fleece		23	Chapter VI: The Black Man and Psychopathology (1) Structure	
10	Chapter IX : Of the Sons of Master and Man		24	Chapter VI: The Black Man and Psychopathology (2) Terminology	
11	Chapter X: Of the Faith of the Fathers		25	Chapter VII:The Black Man and Recognition	
12	Chapter XI: Of the Passing of the First-Born		26	Chapter VIII: By Way of Conclusion	
13	Chapter XII: Of Alexander Crummell		27	Summary and Discussion	
14	Chapter XIII&XIV: Of the Coming of John, Of the Sorros Songs		28	Student's Paper Critique	
【テキスト】					
W.E.B. Du Bois, <i>The Souls of Black Folk</i> (1903: Oxford World's Classics, 2009) Franz Fanon, <i>Black Skin, White Masks</i> (1952: Grove Press, 2008)					
【参考書・参考資料等】					
荒このみ編訳『アメリカの黒人演説集』(岩波文庫、2008) その他、授業で適宜紹介する。					
【事前・事後学習、時間等】					
[事前](3時間)学生のプレゼンテーションを中心に、一回に一章ずつ進む予定だが、発表者以外はパラグラフリーディングを中心に、重要なところは精読してくること。ポイントを詳しく解説し、疑問や問題点についてディスカッションするという形式で授業を進める。英文をきちんと読み、邦訳の助けを借りてもかまわないので各章のテーマを考察してくること。[事後](3時間)本書で学んだことを、各自で関心のある研究に生かすべく、期末レポートの準備を早い段階から始めておく。					
【課題の種類・内容】					
授業でのプレゼンテーション(資料作成と発表)・ディスカッション(積極的に参加し議論を深める)・期末レポート(論理構成および明瞭性を重視)					
【課題に対するフィードバックの方法】					
Moodleを通して行う。					
【成績評価方法・基準】					
授業でのプレゼンテーションと参加状況(50%)および期末レポート(50%)等で総合的に評価する。					
【履修上の注意】					

2022年度 大学院シラバス

研究科 専攻

講義科目名	アメリカ文学研究指導Ⅲ		通年・前期・後期 通年	単位数 4	使用言語 日本語
担当教員名	宮本敬子				
【講義の到達目標及びテーマ】					
1) 批評理論の基本的発想と枠組みを知り、専門用語の理解を深める。2) 理論を用いた文学や文化分析の実践例を読解することにより、理論の可能性と限界を確認する。3) 理論に依拠した分析を実践することにより、新しい解釈の可能性を探索する。					
【講義概要】					
20世紀以降の批評理論を概観し、概略的な知識を身につける。各章の後半にある、理論に基づいた文学・文化分析実践例を精査して、その有効性と限界を吟味する。テキストは基礎的な内容の解説になるので、必要に応じて理論の原典となるテキストも読むことになる。最終的には、受講生の研究分野や関心に基づいて、学んだ理論を応用してレポートを作成する。					
【講義計画内容】					
No	講義計画	(担当)	No	講義計画	(担当者)
1	Introduction		15	Reader-response analysis examples	
2	Psychoanalytic criticism: unconscious, defenses, anxiety and core issues		16	Structuralist Criticism	
3	Psychoanalytic criticism: dream, symbols, death and sexuality		17	Structuralist reading examples	
4	Lacanian psychoanalysis and others		18	Deconstructive Criticism	
5	Psychoanalytic reading examples		19	Deconstructive reading examples	
6	Marxist criticism :class system, ideology, commodity and family		20	New Historical and cultural criticism	
7	Marxist reading: examples		21	New Historical and cultural reading: examples	
8	Feminist Criticism: A summary of feminist premises		22	Lesbian, gay, and queer criticism	
9	French feminism, Multicultural feminism		23	Marginalization of LGBTQ people	
10	Gender studies and feminism		24	Queer theory	
11	Feminist reading: examples		25	Queer reading examples	
12	New Criticism		26	African American criticism	
13	New Critical reading examples		27	Racial issues and African American literary history	
14	Reader-response criticism		28	Critical race theory	
【テキスト】					
Lois Tyson, Critical Theory Today, Routledge, 2014. その他、プリントを配布する。					
【参考書・参考資料等】					
授業時に適宜紹介する。					
【事前・事後学習・時間等】					
[事前](3時間) 学生のプレゼンテーションを中心に進めていく予定だが、発表者以外はテキストを精読してくる。ポイントを詳しく解説し、疑問や問題点についてディスカッションするという形式で授業を進める。英文をきちんと読み、コメントや質問を準備してくる。[事後](3時間) 本授業で学んだことを、各自で関心のある文学、文化、歴史、思想研究に生かすべく、期末レポートの準備を早い段階から始めておくこと。					
【課題の種類・内容】					
授業でのプレゼンテーション(資料作成と発表)・ディスカッション(積極的に参加し議論を深める)・期末レポート(論理構成および明瞭性を重視)					
【課題に対するフィードバックの方法】					
Moodleを通して行う。					
【成績評価方法・基準】					
授業でのプレゼンテーションと参加状況(50%)および期末レポート(50%)等で総合的に評価する。					
【履修上の注意】					

2022年度 大学院シラバス

文学研究科 英文学専攻

講義科目名	アメリカ文学 特殊研究Ⅷ	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期	2	日本語
担当教員名	Osterhaus, Frank E.			
【講義の到達目標及びテーマ】 Mankind's fascination with quest as well as battle have long been the source of many great works of literature--from the great epic poems of long ago to the stories and novels of today. In American literature, one of the more interesting "quest" novels, <i>Henderson the Rain King</i> , was written by Saul Bellow. In this story Bellow has woven together a quest story that incorporates references to and aspects of this tradition.				
【講義概要】 In this course we will study Bellow's <i>Henderson the Rain King</i> in terms of how it utilizes and incorporates the various "quest" traditions ranging from classical to Biblical.				
【講義計画内容】				
No	講義計画			
1	Introduction to the course and Bellow's work.			
2	Chapters I-II Page 3-19 The reasons behind the journey/quest...			
3	Chapter III-IV Page 20-40 More reasons and "tears and madness"			
4	Chapter V-VI Page 41-70 Off to Africa, wrestling and the plague of frogs			
5	Chapter VII-VIII Page 71-99 "Man want to live"and a bomb for the plague of frogs.			
6	Chapter IX-X Page 100-128 Disaster and the quest continues			
7	Chapter XI-XII Page 129-176 The roar of a lion and the skulls of kings			
8	Chapter XIII-XIV Page 177-202 The wager of a guest and then the rain			
9	Chapter XV-XVI Page 203-235 The rain king and the lion's den			
10	Chapter XVII-XVIII Page 236-271 Sungo's duties, the lion witch and the cure for fear			
11	Chapter XIX-XX Page 272-312 Capturing the father Gmilo: Lion Day			
12	Chapter XXI-XXII Page 313-341 Escape and the return			
13	The nature of the quest journey			
14	Final comments and discussion			
【テキスト】 <i>Henderson the Rain King</i> by Saul Bellow				
【参考書・参考資料等】				
【事前・事後学習、時間等】 Always do the reading before class and be sure to look up any references that you don't understand. This story is loaded.				
【課題の種類・内容】 We will carefully go over elements that promote deeper meaning in this quest story, as well as see how it can relate to and/or reflect outside elements.				
【課題に対するフィードバックの方法】 Feedback will be ongoing throughout the discovery process.				
【成績評価方法・基準】 Class discussion and short written or oral reports--50% Final paper--50%				
【履修上の注意】 Nothing in particular.				

2022年度 大学院シラバス

文学研究科 英文学専攻

講義科目名	アメリカ文学演習Ⅶ	通年・前期・後期 通年	単位数 4	使用言語 日本語
担当教員名	Osterhaus, Frank E.			
【講義の到達目標及びテーマ】				
Thomas Pynchon's <i>The Crying of Lot 49</i> was his second novel and very short in comparison with most of his later work. However, it is important because it reveals the tremendous range of thought and expression that will be further unleashed in the magnificent, yet very challenging novels that will follow. During the second semester, we will take a look at some of his early short stories in order to better understand Pynchon's early approach to story-telling that later led to his major works over his career.				
【講義概要】				
In this course we will study how a complex mix of history, science, language, and culture are woven together to create this off-beat detective novel. This is perhaps Pynchon's most playful "novel," but in its play it does reveal a writer that has incredible knowledge and range.				
【講義計画内容】				
No	講義計画	No	講義計画	
1	Introduction to the course and Thomas Pynchon's work.	15	Second semester we will take up his collection of early collection of short stories entitles <i>Slow Learner</i> .	
2	Chapter 1 Page 9-22 The letter and the call.	16	We will start with the longish "Introduction." This is a quite useful explanation by Pynchon of his early writing.	
3	Chapter 2 Page 23-43 A double seduction...the quest	17	The first half of "The Small Rain" will be discussed and analyzed in this week...	
4	Chapter 2 Page 23-43 Life and death issues and games	18	While the second half of the story will be taken up in this following week.	
5	Chapter 3 Page 44-80 Major themes to follow: Science, Revelation, and Communication (and stamps)	19	The second story, "Low-lands" will also take two weeks. This week we should be getting used to the the type of characters that Pynchon develops. After having read <i>CL49</i> you can probably see where his character choice and development came from.	
6	Chapter 3 Page 44-80 Historical considerations	20	This will be the second week of Low-lands."	
7	Chapter 3 Page 44-80 "The Courier's Tragedy"	21	"Entropy" will be our next story (again taking two weeks), and you should be able to recognize a theme that was quite important in <i>CL49</i> .	
8	Chapter 4 Page 81-99 The connectivity of collected information and Maxwell's Demon	22	The second week of "Entropy"	
9	Chapter 4 Page 81-99 Communication possibilities, Stamps and W.A.S.T.E.	23	"Under the Rose" Will take up three weeks, and that story is set primarily in the Middle East. This bears some of the international seeds that will come to fruition in his first two really major works: <i>V</i> and the magnificent <i>Gravity's Rainbow</i> .	
10	Chapter 5 Page 100-145 Communication, other worlds, and the Nefastis Box	24	The second week of "Under the Rose."	
11	Chapter 5 Page 100-145 The muted post horn; One long paragraph	25	The third week of "Under the Rose."	
12	Chapter 6 Page 146-183 Back to Echo Courts	26	"The Secret Integration" will cover the final few weeks. One interestion part of this story is that there is a character named Doctor Slothrop that is introduced. If you ever tackle the novel <i>Gravity's Rainbow</i> , you will discover that the main character in it goes by the name of Slothrop.	
13	Chapter 6 Page 146-183 Deaths,Silent Horn, Trystero	27	Continuing the story...	
14	Chapter 6 Page 146-183 Oedipa awaits the Crying of Lot 49...	28	Finishing the story and the course.	
【テキスト】				
<i>The Crying of Lot 49</i> and <i>Slow Learner</i> by Thomas Pynchon				
【参考書・参考資料等】				
【事前・事後学習、時間等】				
Always do the reading before class and be sure to look up any references that you don't understand. These stories are loaded.				
【課題の種類・内容】				
We will carefully go over elements that promote deeper meaning in this detective/quest story, as well as see how it can relate toand/or reflect outside elements.				
【課題に対するフィードバックの方法】				
Feedback will be ongoing throughout the discovery process.				
【成績評価方法・基準】				
Class discussion and short written or oral reports--50% Final paper--50%				
【履修上の注意】				
Nothing in particular.				

2022年度大学院シラバス

文学研究科 英文学専攻

講義科目名	アメリカ文学特殊研究 X	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期	2	日本語
担当教員名	藤野功一			
【講義の到達目標及びテーマ】				
20世紀半ばのアメリカを代表する文学作品の一つ、Ralph Ellisonの <i>Invisible Man</i> を読み、20世紀前半のアメリカの時代背景であるモダニズム文学およびそれ以降のアメリカ文学の歴史的発展を理解し、作品解釈を行う。考察の過程において、果たして人間のオリジナリティとはなんなのか、また、情報時代における複製芸術の意味とは何か、についても言及したい。				
【講義概要】				
導入部ではアメリカにおけるモダニズム文学、30年代の作家連邦プロジェクト(FWP)のもとでの活動、黒人文学の歴史的的位置付けについて解説し、エリスンが <i>Invisible Man</i> を発表するまでの時代の流れを概観する。その後、 <i>Invisible Man</i> のテキストを読み、この作品にどのような解釈と評価を与えるべきかを議論する。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	Introduction: アメリカにおけるモダニズム文学、作家連邦プロジェクトの活動、および黒人文学について			
2	Invisible Man: Prologue, 1. Invisible Man and Self-Contradictory			
3	Invisible Man: 2-4. A Beautiful College, The Golden Day, and The Wheel			
4	Invisible Man: 5-7. The Sound of Vespers, The Sloping Lawn, and The Station			
5	Invisible Man: 8-10. A Clean Little Room, A Clear Bright Day, and The Plant in Long Irland			
6	中間発表: Invisible Man についての批評を読む			
7	Invisible Man: 11-13. A Cold Chair, Lenox Avenue, and The Window			
8	Invisible Man: 14-16. The Odor of Mary's Cabbage, Awake, and Brother Jack			
9	Invisible Man: 17-19. Four Months Later, Bledsoetrustee, and My First Lecture			
10	中間発表: Invisible Man についての批評を比較検討する			
11	Inviisble Man: 20-22. The Uptown Rhythms, Youth Members, and Business without Tears			
12	Invisible Man: 23-25.The Bar Downstairs, Yessing, and The Fourth of July			
13	Invisible Man: Epilogue. An Invisible Man			
14	発表 : Invisible Man についての解釈と評価			
【テキスト】				
Ralph Ellison. <i>Invisible Man</i> (Vintage)				
【参考書・参考資料等】				
授業中に適宜指示する。				
【事前・事後学習、時間等】				
授業は、担当者が、 <i>Invisible Man</i> のそれぞれの章の簡単なあらすじと、その章の注目すべき部分を引用して報告し、それにもとづいて議論をする形で進める。事前に授業で扱う部分を読み、それぞれ自分なりに作品にコメントし、議論に参加する。				
【課題の種類・内容】				
これまでの <i>Invisible Man</i> についての批評をリサーチしたのち、自分なりにどのような立場に立って <i>Invisible Man</i> を批評すべきかを考え、最終的の作品を論じたレポートを提出する。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
発表及びレポートの内容についてのコメントや修正部分の指摘などを通して、アメリカ文化についての考察とアメリカ文学の解釈の発展を促す。				
【成績評価方法・基準】				
授業中の活動と提出物50%、レポート50%で評価する。				
【履修上の注意】				
4回以上欠席した場合は単位を与えない。15分以上の遅刻は欠席と見なす。遅刻3回で欠席1回に数える。				

2022年度大学院シラバス

文学研究科 英文学専攻

講義科目名	アメリカ文学演習Ⅹ	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		通年	4	日本語
担当教員名	藤野功一			
【講義の到達目標及びテーマ】				
1920年代のいわゆる「失われた世代」を克明に描き出したMalcolm Cowleyの <i>Exile's Return</i> を読み、1920年代のニューヨークにおけるアメリカ文学の状況を理解する。また、アメリカ文学研究における修士論文および博士論文のサーチおよび執筆方法についても学ぶ。				
【講義概要】				
導入部で1920年代の「失われた世代」についての解説を行ったのち、Malcolm Cowleyの <i>Exile's Return</i> を1～2章ずつ読み進める。1920年代のニューヨークを作家、編集者志望の若者として生きたマルカム・カウリーの目を通して、当時のニューヨークにおける若い作家たちの置かれた状況がどのようなものであったかを理解する。また、1920年代のシャーウッド・アンダーソン、フィッツジェラルド、ヘミングウェイなどについて、同時代人カウリーがどのような評価を与えているかを知った上で、これらの作家の短編を読み、レポートを作成する。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画	No.	講義計画	
1	導入:「失われた世代」とは何か	15	Discourse over a Grave/ Case Record	
2	Prologue: The Lost Generation	16	Significant Gesture	
3	Mansions in the Air	17	The French Line Pier, 1923	
4	Blue Juniata/Big-Town High School	18	Women Have One Breast	
5	Apprentice of the Arts / American College, 1916	19	Manhattan Melody	
6	Ambulance Service	20	Connecticut Valley	
7	The Long Furlough / The Greenwich Village Idea	21	Charlestown Prison	
8	The League of Youth / The French Line Pier, 1921	22	The Roaring Boy	
9	Valuta / Historical Parallel	23	No Escape	
10	Transatlantic Review / Form and Matter	24	Letter Left on a Dressing Table	
11	Rumors of Home	25	City of the Sun	
12	Examination Paper	26	The Revolution of the Wood	
13	Readings from the Lives of the Saints	27	To Die at the Right Time	
14	Paris-Express/A Brief History of Dada	28	Epilogue: New Year's Eve	
【テキスト】				
Malcolm Cowley. <i>Exile's Return</i> . Penguin.				
【参考書・参考資料等】				
藤野功一編著『アメリカン・モダニズムと大衆文学』, <i>The Chicago Manual of Style</i> (16th edition), Kate L. Turabian. <i>A Manual for Writers</i> (7th Edition), <i>MLA Handbook</i> , Sonja K. Foss and William Waters. <i>Destination Dissertation</i> (Rowman) など、授業中に適宜指示する。				
【事前・事後学習、時間等】				
テキストについての大筋の解釈を教員が示したのち、学生がそれぞれの目的に応じて担当したいくつかの章についての発表をすることでテキストを読み進める。授業はそれぞれの章の簡単なあらすじと、その章の注目すべき部分を教員、あるいは学生が指摘し、それにもとづいて議論をする形で進める。				
【課題の種類・内容】				
教員の指示した作業方針にもとづき学生が予習および課題を行い、授業での指導の後、課題内容を復習して仕上げる。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
発表及びレポートの内容についてのコメントや修正部分の指摘などを通して、「失われた世代」の作家についての考察と彼らの作品の文学解釈の発展を促す。				
【成績評価方法・基準】				
授業中の活動と提出物50%、レポート50%で評価する。				
【履修上の注意】				
4回以上欠席した場合は単位を与えない。15分以上の遅刻は欠席と見なす。遅刻3回で欠席1回に数える。				

2022年度大学院シラバス

文学研究科 英文学専攻

講義科目名	アメリカ文学研究指導II	通年・前期・後期 通年	単位数 4	使用言語 日本語
担当教員名	藤野功一			
【講義の到達目標及びテーマ】				
研究者としての基礎的な能力である論文執筆の手順(データ収集、文献レビュー、問いの設定、ノート、アウトライン、草稿の作成)を習得しつつ、研究対象のテキストを精読し、論文作成を進め、博士論文の完成を目指す。				
【講義概要】				
論文執筆の手順がどのようなものかを実際に経験して、自分が論文を書くことができるようになるばかりでなく、将来にわたって論文作成を指導することができる能力を身につける。演習形式で、一定の手順に沿った論文作成方法をどのように自分に合ったものにするかを考える。学生は、テキストを明確な問いのもとに批評的に読み、博士論文を完成させることを目指す。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画	No.	講義計画	
1	Preparation and timetable	15	The literature review and creating the concept	
2	Dissertation checklist	16	Research question	
3	Identifying key pieces	17	Definition of terms	
4	Developing your literacy: The proposal	18	Literature review	
5	Formulating your research question	19	Research design: Data	
6	Selecting your data	20	Research design: History of Context	
7	Aligning your research question and your data	21	Research design: Procedures	
8	Identifying your method of data analysis	22	Research design: Data Collection	
9	Identifying the literature to review	23	Research design: Data Analysis	
10	Identifying the significance of your study	24	Research design: Assumptions	
11	Identify your chapters	25	Significance of the Study	
12	Writing your preproposal	26	Outline of the Study	
13	Assessing your decisions	27	Recheck the sections of a dissertation proposal	
14	Committing to the Preproposal	28	Approval of the proposal	
【テキスト】				
授業中に適宜指示する				
【参考書・参考資料等】				
Sonja K. Foss and William Waters. Destination Dissertation (Rowman), Koichi Fujino. Studying and Teaching W.C. Falkner, William Faulkner, and Digital Literacy (Lexington Books), The Chicago Manual of Style (16th edition), Kate L. Turabian. A Manual for Writers (7th Edition), MLA Handbook, 櫻井雅夫『レポート・論文の書き方 (上級)』(慶應義塾大学出版会)など、授業中に適宜指示する。				
【事前・事後学習、時間等】				
教員の指示した作業方針にもとづき学生が予習および課題を行い、授業での指導の後、課題内容を復習して仕上げる。				
【課題の種類・内容】				
毎回の授業内容に沿った課題を課し、最終的に論文を作成して提出する。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
発表及びレポートの内容についてのコメントや修正部分の指摘などを通して、アカデミックなアメリカ文学の解釈方法を指導する。				
【成績評価方法・基準】				
授業中の活動と提出物50%、レポート50%で評価する。				
【履修上の注意】				
4回以上欠席した場合は単位を与えない。15分以上の遅刻は欠席と見なす。遅刻3回で欠席1回に数える。				

2022年度大学院シラバス

文学研究科 英文学専攻

講義科目名	アメリカ文学学位論文指導B	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期	2	日本語
担当教員名	藤野功一			
【講義の到達目標及びテーマ】				
この講義では博士論文作成のための理論的基礎を身につけ、同時に博士論文を仕上げるための技術的な知識を身に付けることを目的とする。				
【講義概要】				
博士論文作成のための理論的基礎に必要な文献、および、博士論文を仕上げるための技術的な知識を習得するための文献を読みながら、習得した知識を実践的に博士論文に応用、あるいは適用させるように指導を行う。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	The Field			
2	The Problem			
3	The Method			
4	The Social Bond			
5	The Nature			
6	The Pragmatics			
7	The Legitimation of Knowledge			
8	The Narrative Function			
9	Narratives of the Legitimation of Knowledge			
10	Delegitimation			
11	Research and Its Legitimation			
12	Education and Its Legitimation			
13	Postmodern Science			
14	The Legitimation			
【テキスト】				
授業中に適宜指示する				
【参考書・参考資料等】				
A handbook for writers is recommended. Details will be provided in the class.				
【事前・事後学習、時間等】				
学習した内容を反映させた論文を作成し、定期的に提出し、それに対するフィードバックを行うことで、事前、事後学習を行う。				
【課題の種類・内容】				
Weekly assigned reading, plus preparation of presentations, paper drafts, discussion points etc.				
【課題に対するフィードバックの方法】				
Immediate spoken feedback as well as written corrections and suggestions on all written assignments will be provided.				
【成績評価方法・基準】				
Grades will be based equally on class participation, presentations, and writing assignments.				
【履修上の注意】				
Systematic weekly progress toward the final goal is strongly encouraged.				

2022年度 大学院シラバス

文学研究科 英文学専攻

講義科目名	英語学特殊研究Ⅱ	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		後期	2	日本語
担当教員名	前田雅子			
【講義の到達目標及びテーマ】				
英語の主要構文について、統語論の基本理念と言語事実の理解を深める。				
【講義概要】				
英語の主要構文（疑問文やthere構文、省略文など）を通じて統語論の基本理念と原理を理解することを目標とする。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	文法の枠組み			
2	時と時制			
3	ムードとモダリティ			
4	アスペクト			
5	動詞のクラスと交替現象			
6	名詞句移動			
7	疑問詞移動			
8	関係節			
9	there構文			
10	分裂文とbe動詞構文			
11	話題化構文と右方移動構文			
12	省略現象			
13	that補文と不定詞補文			
14	Summary 1			
【テキスト】				
英語の主要構文（中村捷・金子義明（編））				
【参考書・参考資料等】				
授業中に適宜指示する				
【事前・事後学習、時間等】				
授業で扱う範囲を予習し、授業の概要を理解してくること。授業中にわからない部分はその場で質問すること。復習をしっかりと行う				
【課題の種類・内容】				
授業中に適宜指示する				
【課題に対するフィードバックの方法】				
授業中に適宜指示する				
【成績評価方法・基準】				
授業への積極的参加（20）、課題（30）、期末レポート（50）				
【履修上の注意】				

2022年度 大学院シラバス

文学研究科 英文学専攻

講義科目名	英語学演習Ⅱ	通年・前期・後期	単位数	使用言語	
		前期(週2コマ)	4	日本語	
担当教員名	前田雅子				
【講義の到達目標及びテーマ】					
統語論の基本理念と基本原理を理解する。					
【講義概要】					
統語—意味、統語—音の相互作用が強く関わるカートグラフィ、数量詞の作用域、削除構文などを学習し、言語事実の知識の増強と統語原理の理解に務める。					
【講義計画内容】					
No.	講義計画	(担当者)	No.	講義計画	(担当者)
1	Chomsky (2022)		15	wh疑問文	
2	Chomsky (2022)_2		16	wh疑問文と作用域解釈	
3	Chomsky (2022)_3		17	数量詞と作用域解釈	
4	Chomsky (2022)_4		18	削除と作用域解釈	
5	名詞交換会		19	韻律と作用域解釈	
6	相対的最小性Ⅰ		20	コントロール現象	
7	相対的最小性Ⅱ		21	tough構文	
8	統語—音のインターフェース		22	方言研究Ⅰ	
9	動詞句削除		23	方言研究Ⅱ	
10	sluicing		24	分散形態論の基礎	
11	名詞句削除		25	分散形態論と日本語の動詞接辞	
12	空所化		26	統語構造とラベリング・アルゴリズムⅠ	
13	項省略		27	統語構造とラベリング・アルゴリズムⅡ	
14	Summary 1		28	Summary 2	
【テキスト】					
プリント配布					
【参考書・参考資料等】					
授業中に適宜指示					
【事前・事後学習、時間等】					
授業中にわからない部分はその場で質問すること。復習をしっかりと行うこと。					
【課題の種類・内容】					
授業中に適宜指示					
【課題に対するフィードバックの方法】					
授業中に適宜指示					
【成績評価方法・基準】					
授業への積極的参加(20)、課題(30)、中間・期末レポート(50)					
【履修上の注意】					

2022年度 大学院シラバス

文学研究科 英文学専攻

講義科目名	英語学特殊研究Ⅲ	通年・前期・後期 前期	単位数 2	使用言語 日本語
担当教員名	藤本 滋之			
【講義の到達目標及びテーマ】				
英語教育および翻訳への活用・応用という観点から英語学の研究成果を見直す。				
【講義概要】				
統語論、意味論、音韻論の研究成果を英語教育および翻訳に応用する観点から英語学の研究成果を見直すべく、ディスカッション主体で授業を進める。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	音声学・音韻論と音声指導			
2	形態論・語形成と語彙の指導			
3	統語論・意味論と文構造(文型)の導入			
4	Cartography と主語指向・話者指向と助動詞の二用法			
5	Cartography と主語指向・話者指向と副詞の用法			
6	補文の構造と準動詞(不定詞・分詞・動名詞)1:不定詞付き対格			
7	補文の構造と準動詞(不定詞・分詞・動名詞)2:形容詞＋不定詞			
8	情報のなわ張りと指示詞			
9	代名詞と照応			
10	前置詞と句動詞			
11	副詞節(条件節)の構造と意味			
12	There 構文の構造と意味			
13	話題化構文と場所格倒置構文			
14	否定と数量詞の作用域と意味			
【テキスト】				
加賀信広・大橋一人(2017)「授業力アップのための 一歩進んだ英文法」開拓社				
【参考書・参考資料等】				
授業時に関係する文献を紹介する。				
【事前・事後学習、時間等】				
授業で扱う論文に事前に目を通しておく。				
【課題の種類・内容】				
授業への貢献と期末論文				
【課題に対するフィードバックの方法】				
授業時のディスカッションと期末論文に対するコメント				
【成績評価方法・基準】				
授業への貢献度50%、期末論文50%。				
【履修上の注意】				
理論と応用のバランスを保ちながら具体的な問題に取り組む。				

2022年度 大学院シラバス

文学研究科 英文学専攻

講義科目名	英語学演習Ⅲ		通年・前期・後期	単位数	使用言語
			通年	4	日本語
担当教員名	藤本 滋之				
【講義の到達目標及びテーマ】					
2年次生の修士論文のテーマについて情報を update し、問題意識を共有することを 主目標とする。					
【講義概要】					
各テーマについてレポートとディスカッション中心の演習形式で授業を進める。修士論文のテーマとはいえ、Agree、cartography、受身と使役等、射程の広い事項であるから、1年次生にも十分意義のある授業になると考えている。					
【講義計画内容】					
No.	講義計画	(担当者)	No.	講義計画	(担当者)
1	前期授業計画: 扱う文献と目標の確認		15	後期授業計画: 扱う文献と目標の確認	
2	Agree 第1回		16	Agree 第5回	
3	Cartography 第1回		17	Cartography 第5回	
4	使役と受身第1回		18	使役と受身第5回	
5	Agree 第2回		19	Agree 第6回	
6	Cartography 第2回		20	Cartography 第6回	
7	使役と受身第2回		21	使役と受身第6回	
8	Agree 第3回		22	Agree 第7回	
9	Cartography 第3回		23	Cartography 第7回	
10	使役と受身第3回		24	使役と受身第7回	
11	Agree 第4回		25	Agree 第8回	
12	Cartography 第4回		26	Cartography 第8回	
13	使役と受身第4回		27	使役と受身第8回	
14	前期のまとめと研究課題の確認		28	後期のまとめと研究成果・今後の課題の確認	
【テキスト】					
各テーマに関する主要な論文					
【参考書・参考資料等】					
原口庄輔他編(2016)「チョムスキー理論辞典」研究社					
【事前・事後学習、時間等】					
各テーマに関係する論文のアウトライン、問題点の整理等、研究を進めるのに必要な作業全般					
【課題の種類・内容】					
関係する論文のアウトライン把握、問題点の分析等					
【課題に対するフィードバックの方法】					
授業時あるいは授業時以外でのコメント、ディスカッション					
【成績評価方法・基準】					
授業への貢献度と期末論文					
【履修上の注意】					
問題意識を常に active にしておく。					

2022年度 大学院シラバス

文学研究科 英文学専攻

講義科目名	英語学研究指導Ⅱ		通年・前期・後期	単位数	使用言語
			通年	4	日本語
担当教員名	藤本 滋之				
【講義の到達目標及びテーマ】					
研究を進める手法、研究テーマに関する情報の更新、データの構築と解釈ほか、博論完成に必要な情報と方法を習得する。					
【講義概要】					
情報交換とディスカッションによって授業を進める。					
【講義計画内容】					
No.	講義計画	(担当者)	No.	講義計画	(担当者)
1	昨年度までの問題の整理と今年度の予定の確認		15	VP内副詞の統語構造議論1	
2	VPの構造:VP内のFocus Phrase (Belletti 2004)		16	VP内副詞の統語構造議論2	
3	同上第2回:動詞の後ろに生起する主語		17	VP内副詞の統語構造議論3	
4	同上第3回:動詞句の構造VSXP		18	VP内副詞の統語構造議論4	
5	同上第4回:動詞句の構造VOS		19	VP内副詞の統語構造議論5	
6	同上第5回:Topicになり得る動詞の後ろの主語		20	VP内副詞の統語構造議論6	
7	VPの構造:VP内のFocus Phrase (Yanagida 2005)		21	VP内副詞の統語構造議論7	
8	同上第2回:Focusの投射		22	VP内副詞の統語構造議論8	
9	同上第3回:Clitic Q 移動		23	VP内副詞の統語構造議論9	
10	同上第4回:格助詞／係助詞と節構造の変化		24	VP外副詞の統語構造議論1	
11	同上第5回:Topicになり得る動詞の後ろの主語		25	VP外副詞の統語構造議論2	
12	同上第6回:Focus移動と意味解釈		26	VP外副詞の統語構造議論3	
13	動詞の前に生起する様態／程度副詞の位置第1回		27	VP外副詞の統語構造議論4	
14	動詞の前に生起する様態／程度副詞の位置第2回		28	VP外副詞の統語構造議論5	
【テキスト】					
なし					
【参考書・参考資料等】					
議論展開の過程で適宜紹介する。					
【事前・事後学習、時間等】					
常に研究テーマを念頭に置いて生活する。					
【課題の種類・内容】					
研究を進めることが課題のすべてである。					
【課題に対するフィードバックの方法】					
授業時のコメント					
【成績評価方法・基準】					
期末論文					
【履修上の注意】					
コーパスや論文等、ICT環境での情報収集に慣れておくこと。					

2022年度 大学院シラバス

文学研究科 英文学専攻

講義科目名	英語学特殊研究 V	通年・前期・後期 前期	単位数 2	使用言語 日本語
担当教員名	伊藤 彰浩			
【講義の到達目標及びテーマ】				
教育学や社会心理学で用いられる個人別態度構造分析（PAC）の手順を修得し、クラスター分析に基づいたデータの解釈ができるようになることを目標とする。				
【講義概要】				
受講生は個人別態度構造分析の理論と学んだのち、各自の興味関心に基づいて、実際のデータ収集とクラスター分析による解析を体験する。そして小論文の完成を通して、定質的研究と定量的研究の融合を目指すPAC分析の可能性と限界について検討してほしい。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	イントロダクション			
2	個人別態度構造分析とは			
3	日本人を対象とした個人別態度構造分析			
4	個人別態度構造分析＜理論編＞質的心理学からのアプローチ			
5	個人別態度構造分析＜理論編＞現象学からのアプローチ			
6	個人別態度構造分析＜実践編＞データ収集			
7	個人別態度構造分析＜実践編＞クラスター分析			
8	個人別態度構造分析＜実践編＞デンドログラムの解釈			
9	個人別態度構造分析＜実践編＞論文執筆法			
10	プレゼンテーション：調査課題の設定			
11	プレゼンテーション：調査計画			
12	プレゼンテーション：データ収集			
13	プレゼンテーション：クラスター分析とデンドログラムの解釈			
14	今後の研究の方向性を探る			
【テキスト】				
テキストはない。毎回の授業で配付する資料を入念に読んで準備してほしい。				
【参考書・参考資料等】				
授業時に提示する文献リストを参考に図書館でコピーを入手し、積極的に読んでほしい。				
【事前・事後学習、時間等】				
毎回の授業資料を熟読し、内容を理解したうえで授業に臨むこと(1.5時間程度)。 その後、内容が理解できているか確認すること(1時間程度)。				
【課題の種類・内容】				
本授業の内容の理解を確実にし、各自の研究に利用できるようにするため、レポート及び口頭発表等を課す。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
本授業の内容の理解を確実にし、各自の研究に利用できるようにするため、レポート及び口頭発表等を課す。				
【成績評価方法・基準】				
成績は(1)出席(10%)、(2)研究の進捗状況(30%)、(3)文献理解の程度(40%)、(4)論文の内容(20%)を総合して判定する。				
【履修上の注意】				
研究者としてのライフ・スタイルを確立して自己のスケジュール管理と健康管理に努めてほしい。				

2022年度 大学院シラバス

文学研究科 英文学専攻

講義科目名	英語学演習 V	通年・前期・後期 通年	単位数 4	使用言語 日本語	
担当教員名	伊藤彰浩				
【講義の到達目標及びテーマ】					
総合的言語熟達度を測定できると考えられている C-Test のデータを利用し、古典的テスト理論とラッシュ分析に基づいた統計分析を実際に体験してもらう。そして、データに基づいた研究法の可能性と限界を理解してもらいたい。					
【講義概要】					
C-Testの妥当性の検証法に関する研究を取り上げ、現在必要とされる研究について明らかにしていく。古典的テスト理論とラッシュ分析の結果を踏まえ、自分で収集したデータを適切に分析し解釈する能力を身につけることで、言語テスト研究に関する理解を深め、日本の英語教育における測定・評価の課題を検討する。					
【講義計画内容】					
No.	講義計画	(担当者)	No.	講義計画	(担当者)
1	クローズテストと C-Test		15	データ分析:探索的因子分析	
2	テスト項目の特徴		16	データ分析:確証的因子分析	
3	局所独立性		17	C-Testing とラッシュ分析	
4	古典的テスト理論		18	ラッシュ分析とは	
5	C-Testの妥当性検証		19	一次元性	
6	同時的妥当性		20	WINSTEP利用法: Dichotomous	
7	構成概念的妥当性		21	WINSTEP利用法: Polytomous	
8	調査課題の設定		22	ラッシュ分析の結果と検討: 受験者測定値	
9	調査方法		23	ラッシュ分析の結果と健闘: 項目測定値	
10	The Hungarian Study の批判的検討: 文献		24	ラッシュ分析の結果と検討: 残差分析	
11	The Hungarian Study の批判的検討: 統計		25	C-Test の信頼性の検討	
12	調査課題の設定		26	C-Test の妥当性の検討	
13	データ分析: 基本統計値		27	プレゼンテーション: C-Testの作成	
14	データ分析: 相関係数と分散分析		28	完成論文の発表について	
【テキスト】					
Baghaei, P. (2011). C-Test construct validation: A Rasch modeling approach. Saarbrücken: VDM Verlag Dr Müller.					
【参考書・参考資料等】					
それぞれの文献について、その回の講義の目的に即して事前に読み込むようにしてください。					
【事前・事後学習、時間等】					
毎回の授業資料を熟読し、内容を理解したうえで授業に臨むこと(1.5時間程度)。その後、内容が理解できているか確認すること(1時間程度)。					
【課題の種類・内容】					
本授業の内容の理解を確実にし、各自の研究に利用できるようにするため、レポート及び口頭発表等を課す。					
【課題に対するフィードバックの方法】					
授業中の意見、発表に対して随時感想と注意点を明確にし、レポート及び口頭発表に対して建設的なコメントをする。					
【成績評価方法・基準】					
成績は(1)出席(10%)、(2)研究の進捗状況(30%)、(3)文献理解の程度(40%)、(4)論文の内容(20%)を総合して判定する。					
【履修上の注意】					
研究者としてのライフ・スタイルを確立して自己のスケジュール管理と健康管理に努めてほしい。					

2022年度 大学院シラバス

文学研究科 英文学専攻

講義科目名	英語学研究指導 III	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		通年	4	日本語
担当教員名	伊藤彰浩			
【講義の到達目標及びテーマ】				
この授業は標準終了年限3年以内での学位論文作成を最終目標として、院生の定めた研究テーマを追及し、研究会または学会等で発表を行うとともに、1本以上の論文を作成し、学術専門誌（査読付き）へを各年の到達目標とする。学位論文は、それらの論文の集成として完成されることを目標とする。				
【講義概要】				
授業は学位論文の研究テーマと論文の構成を作り、それを基に今年度作成する論文のための具体的な研究内容の設定から始める。標準的なケースとしては、修士論文を加筆修正して最初の論文を作成し、そこから次の研究内容に進むことになります。具体的には研究ではそのためのリーディングリストを作って、研究を進めることになります。今年度は、研究テーマが若干異なる院生が複数参加する予定なので、互いに参考になる部分を見出しながらも、各回の授業は輪番的に研究経過の報告を行う形式になると考えられます。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画	(担当者)	No.	講義計画
1	研究テーマの確認		15	第2論文作成方針の検討
2	研究テーマのリーディング・リストの確認		16	第2論文作成プロセスの確認
3	修士論文の修正：論理展開		17	リーディング・リスト文献の報告：データの信頼性
4	修士論文の修正：研究課題の設定		18	リーディング・リスト文献の報告：データの妥当性
5	修士論文の修正：データ収集と分析		19	リーディング・リスト文献の報告：統計解析
6	修士論文に基づく論文作成内容の確認		20	リーディング・リスト文献の報告：結果の提示法
7	リーディン・グリスト文献の報告：1980年代		21	リーディング・リスト文献の報告：考察の書き方
8	リーディン・グリスト文献の報告：1990年代		22	リーディング・リスト文献の報告：結論の書き方
9	リーディン・グリスト文献の報告：2000年代		23	リーディング・リスト文献の報告：参考文献
10	リーディン・グリスト文献の報告：2010年代		24	論文の概要報告：先行研究
11	リーディン・グリスト文献の報告：1990年代までのまとめ		25	論文の概要報告：調査方法
12	リーディン・グリスト文献の報告：2000年代までのまとめ		26	論文の概要報告：データ分析、結果、考察、結論
13	修士論文に基づく論文の報告		27	論文発表準備
14	第2論文テーマの議論：先行研究と研究課題の設定		28	論文の修正と完成論文の報告
【テキスト】				
各論文を作成する段階での研究テーマごとに協議の上でリーディング・リストを作成する。				
【参考書・参考資料等】				
テキストと同様に、論文作成に必要な参考文献リストを協議して作成する。				
【事前・事後学習、時間等】				
毎回の授業資料を熟読し、内容を理解したうえで授業に臨むこと(1.5時間程度)。その後、内容が理解できているか確認すること(1時間程度)。				
【課題の種類・内容】				
本授業の内容の理解を確実にし、各自の研究に利用できるようにするため、レポート及び口頭発表等を課す。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
授業中の意見、発表に対して随時感想と注意点を明確にし、レポート及び口頭発表に対して建設的なコメントをする。				
【成績評価方法・基準】				
成績は(1)出席、(2)研究の進捗状況、(3)文献理解の程度、(4)論文の内容を総合して判定する。				
【履修上の注意】				
研究者としてのライフ・スタイルを確立して自己のスケジュール管理と健康管理に努めてほしい。				

2022年度 大学院シラバス

文学研究科 英文学専攻

講義科目名	英語学学位論文指導	通年・前期・後期 後期	単位数 2	使用言語 日本語
担当教員名	伊藤彰浩			
【講義の到達目標及びテーマ】				
この講義は、応用言語学および英語教育学における研究手法を身につけ学位論文作成の基礎能力を養成するためのものであり、研究テーマの設定方法、研究遂行上の調査、実験および総計分析の方法、研究結果のまとめ方の習熟を目標とします。				
【講義概要】				
受講者が先行する分野における代表的な研究論文を具体例として、研究テーマの設定方法、資料収集方法、データ分析方法、結果を論文にまとめる際の注意点や学術論文の形式や書き方等について研究していきます				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	講義内容と進め方: イントロダクション			
2	研究テーマの設定方法: 文献資料の収集方法			
3	研究テーマの設定方法: 文献資料の読み方			
4	研究テーマの設定方法: 文献資料の引用方法			
5	先行研究のまとめ方: 年代順			
6	先行研究のまとめ方: 年代をさかのぼる			
7	先行研究のまとめ方: 研究課題の設定			
8	データ収集の方法(1) (テスト作成法)			
9	データ収集の方法(2) (アンケートの作成法)			
10	統計分析法 (1) (古典的テスト理論)			
11	統計分析法 (2) (分散分析)			
12	統計分析法 (3) (現代テスト理論とラッシュ分析)			
13	学術論文の形式と執筆法: データの提示方法			
14	学術論文の形式と執筆法: 引用と参考文献			
【テキスト】				
授業の初回に文献リストをわたす。				
【参考書・参考資料等】				
文献リスト以外に必要な資料等は、その都度指示する。				
【事前・事後学習、時間等】				
毎回の授業資料を熟読し、内容を理解したうえで授業に臨むこと(1.5時間程度)。その後、内容が理解できているか確認すること(1時間程度)。				
【課題の種類・内容】				
本授業の内容の理解を確実にし、各自の研究に利用できるようにするため、レポート及び口頭発表等を課す。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
授業中の意見、発表に対して随時感想と注意点を明確にし、レポート及び口頭発表に対して建設的なコメントをする。				
【成績評価方法・基準】				
成績は(1)出席(10%)、(2)研究の進捗状況(30%)、(3)文献理解の程度(40%)、(4)論文の内容(20%)を総合して判定する。				
【履修上の注意】				
研究者としてのライフ・スタイルを確立して自己のスケジュール管理と健康管理に努めてほしい。				

2022年度 大学院シラバス

文学研究科 英文学専攻

講義科目名	英語学特殊研究Ⅶ	通年・前期・後期 前期	単位数 2	使用言語 日本語
担当教員名	C.L.ドーハティ			
【講義の到達目標及びテーマ】				
This course is a survey of the history of English language teaching in Great Britain, Europe and later in the United States, Japan and other places. We will consider the different conceptions of what English is and what teaching is in different periods, as well as the identity of students and the objectives of teaching. Students will contribute their own research to the developing topics of the course. By the end of the course, students should understand how the ELT field developed, be able to engage in discussions of major issues in second-language teaching, and apply knowledge to designing their own lesson plans and curricula.				
【講義概要】				
Each week's class will start with a discussion of the assigned textbook chapter and supplementary readings. Students will also take charge of chapters and articles and introduce the content to the class. They will also be required to undertake a research project on an aspect of the course.				
【講義計画内容】				
No	講義計画			
1	Introduction to the course; Textbook part 1/section 1 (Practical language teaching)			
2	Textbook Part I/section 1 (Spread of language teaching)			
3	Textbook Part I/section 2 (On fixing the language; reforms)			
4	Textbook Part I/section 2 (On fixing the language: teaching)			
5	Textbook Part II/section 1 (Teaching in the Empire)			
6	Textbook Part II/section 2 (Development of Grammar Translation Method)			
7	Textbook Part II/section 2 (The Reform Movement)			
8	Textbook Part II/section 2 (Development of Natural Methods)			
9	Textbook Part III/section 1 (Phases of teaching EFL/ESL; Communication)			
10	Textbook Part III/section 1 (Phases of teaching EFL/ESL; 20th century)			
11	Textbook Part III/section 2 (Harold Palmer)			
12	Textbook Part III/section 2 (Old patterns and new directions: Hornby)			
13	Textbook Part III/section 2 (Communicative approaches)			
14	Research presentations			
【テキスト】				
Howatt, A.P.R. (with Widdowson, H.G.) (2004). A History of English Language Teaching, Oxford: Oxford University Press				
【参考書・参考資料等】				
Supplementary materials will be provided in class.				
【事前・事後学習、時間等】				
Read the material in advance, present on chapters of the textbook and supplementary readings, conduct research.				
【課題の種類・内容】				
Weekly discussion; presentations; written paper (in English) on a topic related to the course				
【課題に対するフィードバックの方法】				
Oral and written feedback				
【成績評価方法・基準】				
Discussions (25%), presentations (25%), research paper (50%)				
【履修上の注意】				
Sufficient ability for reading, discussion, presentation, and research writing in English.				

2022年度 大学院シラバス

研究科 専攻

講義科目名	英語学特殊研究VIII	通年・前期・後期 後期	単位数 2	使用言語 日本語
担当教員名	C.L.ドーハティ			
【講義の到達目標及びテーマ】				
This course examines the history of English language learning and teaching in Japan against the backdrop of the government's educational policies from the Edo period to the recent present. We will focus particularly on the pedagogical contributions of foreigners and of a few key Japanese who studied abroad. By the end of the course, students should understand how the ELT field developed in Japan and be able to assess the contributions to language teaching of foreign educators and foreign-educated Japanese.				
【講義概要】				
Students will be required to read a chapter from the textbook in preparation for class discussion of the issues presented, in addition to presenting on the chapters of the textbook and on supplementary readings.				
【講義計画内容】				
No	講義計画			
1	Introduction; institutional issues and individual actors			
2	Language learning and learners in the Edo period			
3	Meiji/Taisho teachers and learners of English			
4	Japanese abroad and their learning strategies			
5	Policies of vocabulary and grammar control			
6	Tsuda Umeko			
7	Harold Edward Palmer			
8	A. S. Hornby			
9	English during the Pacific War			
10	English in the Post-war Period 1			
11	English in the Post-war Period 2			
12	Entrance Examinations			
13	Global Issues in English			
14	Research presentations			
【テキスト】				
Materials will be provided in class.				
【参考書・参考資料等】				
【事前・事後学習、時間等】				
Required rreading in preparation for in-class discussion of the issues presented;' individual research.				
【課題の種類・内容】				
Weekly presentations and discussion; recreation of a course or curriculum that one of educators studied in the course might have used				
【課題に対するフィードバックの方法】				
Oral and written feedback				
【成績評価方法・基準】				
In-class discussion (25%), presentations (25%), research paper (50%)				
【履修上の注意】				
Sufficient ability for reading, discussion, presentation, and research writing in English.				

2022年度 大学院シラバス

文学研究科 英文学専攻

講義科目名	英語学演習Ⅶ	通年・前期・後期 通年	単位数 4	使用言語 日本語	
担当教員名	C.L.ドーハティ				
【講義の到達目標及びテーマ】					
This course examines the situation between Japan and the United States during World War II and then the occupation. The first semester looks at issues during the latter part of the war with a particular focus on the way that racism on both sides empowered the hostilities. The second semester looks at the period of the occupation focusing on the interaction between occupier and occupied, the war-crime trials, the post-war constitution, war brides, and the fate of the emperor and the imperial system.					
【講義概要】					
Each week's class will start with a discussion of the assigned textbook chapter, and supplementary readings. Students will also take charge of chapters and articles and introduce the content to the class.					
【講義計画内容】					
No	講義計画	(セメスター)	No	講義計画	(セメスター)
1	Orientation: Themes and Methods		15	Demilitarization, Democratization, Reform	
2	World War II as a Race War		16	Life in Occupied Japan: Exhaustion	
3	Describing the Enemy: Propaganda		17	Life in Occupied Japan: Cultures of Defeat	
4	War Crimes		18	Life in Occupied Japan: Language	
5	Western Images of Japan 1		19	Reevaluating Japan	
6	Western Images of Japan 2		20	The Emperor	
7	Western Images of Japan 3		21	The Imperial System	
8	Western Images of Japan 4		22	The Constitution 1	
9	Japanese Ideas of War 1		23	The Constitution 2	
10	Japanese Ideas of War 2		24	Censorship	
11	Japanese Ideas of War 3		25	The Tokyo Tribunal	
12	Surrender plans		26	Remembering the Dead	
13	Ssurrender realities		27	The End of the Occupation	
14	Presentations		28	Presentations	
【テキスト】					
Textbooks to be announced					
【参考書・参考資料等】					
Supplementary materials will be provided in class.					
【事前・事後学習、時間等】					
Read the material in advance, present on chapters of the textbook and supplementary readings, conduct and present research.					
【課題の種類・内容】					
Weekly assigned reading, plus preparation of presentations, paper drafts, discussion points etc.					
【課題に対するフィードバックの方法】					
Oral and written feedback					
【成績評価方法・基準】					
Discussions (25%), presentations (25%), research project (50%)					
【履修上の注意】					
Sufficient ability for reading, discussion, presentation, and research writing in English.					

2022年度 大学院シラバス

文学研究科 英文学専攻

講義科目名	英語学特殊研究X	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期	2	日本語
担当教員名	中西 弘			
【講義の到達目標及びテーマ】				
言語理解の認知メカニズム				
【講義概要】				
論文の輪読・解説・ディスカッションを通して、英語母語話者・日本人英語学習者における言語理解(主に音声言語)の心的メカニズムの一端を解明することを目的とする。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	記憶システム:ワーキングメモリ(音韻ループ)と言語獲得			
2	文字・音声の知覚プロセス			
3	リーディング・リスニングの認知プロセスにおけるプロソディの役割			
4	語彙処理プロセス(1)メンタルレキシコンの仕組み			
5	語彙処理プロセス(2)語彙アクセスモデル			
6	文処理プロセス(1)文解析器の性質			
7	文処理プロセス(2)文処理における諸情報(意味・文脈・語彙・プロソディ)の影響			
8	文処理プロセス(3)文処理とワーキングメモリ			
9	文章理解プロセス(1)文章理解におけるプロソディの役割			
10	文章理解プロセス(2)文章理解における背景知識・推論の役割			
11	言語処理の熟達化プロセス(1)プロソディシャドーイングの効果			
12	言語処理の熟達化プロセス(2)リピーティングの効果			
13	言語処理の熟達化プロセス(3)統語プライミング			
14	第二言語学習者の言語処理プロセスの特徴と指導法のまとめ			
【テキスト】				
なし				
【参考書・参考資料等】				
なし				
【事前・事後学習、時間等】				
事前学習:Moodleにアップロードされた論文を事前に読む				
事後学習:論文・授業内容を通して考えたことをMoodleのフォーラム機能に投稿				
【課題の種類・内容】				
論文の報告				
【課題に対するフィードバックの方法】				
論文の報告内容に対するコメント・解説				
【成績評価方法・基準】				
論文報告50%、授業活動50%				
【履修上の注意】				

2022年度 大学院シラバス

文学研究科 英文学専攻

講義科目名	英語学演習IX	通年・前期・後期	単位数	使用言語	
		通年	4	日本語	
担当教員名	中西 弘				
【講義の到達目標及びテーマ】					
実験言語学の基礎					
【講義概要】					
様々な文献を基に、英語音声学・心理言語学の基礎的な事項について理解を深める。また、心理言語学的な研究手法を用いて、言語運用の熟達化プロセスの一端を解明することを目指す。これらの知見を踏まえ、外国語教育への応用可能性についても検討したい。					
【講義計画内容】					
No.	講義計画	(担当者)	No.	講義計画	(担当者)
1	イントロダクション		15	言語実験の手法1	
2	英語音声学にまつわる文献1		16	言語実験の手法2	
3	英語音声学にまつわる文献2		17	言語実験の手法3	
4	英語音声学にまつわる文献3		18	言語データの分析方法1	
5	英語音声学にまつわる文献4		19	言語データの分析方法2	
6	英語音声学にまつわる文献5		20	言語データの分析方法3	
7	英語音声学にまつわる文献6		21	研究報告・議論	
8	英語音声学にまつわる文献7		22	研究報告・議論	
9	心理言語学にまつわる文献1		23	研究報告・議論	
10	心理言語学にまつわる文献2		24	研究報告・議論	
11	心理言語学にまつわる文献3		25	研究報告・議論	
12	心理言語学にまつわる文献4		26	研究報告・議論	
13	心理言語学にまつわる文献5		27	研究報告・議論	
14	心理言語学にまつわる文献6		28	研究報告・議論	
【テキスト】					
なし					
【参考書・参考資料等】					
なし					
【事前・事後学習、時間等】					
事前学習：Moodleにアップロードされた論文を事前に読む 事後学習：論文・授業内容を通して考えたことをMoodleのフォーラム機能に投稿					
【課題の種類・内容】					
論文の報告					
【課題に対するフィードバックの方法】					
論文の報告内容に対するコメント・解説					
【成績評価方法・基準】					
論文報告50%、授業活動50%					
【履修上の注意】					

2022年度 大学院シラバス

文学研究科 英文学専攻

講義科目名	コミュニケーション学特殊研究I	通年・前期・後期 前期	単位数 2	使用言語 その他または複数言語
担当教員名	宮原 哲			
【講義の到達目標及びテーマ】 これまで影響力を持ってきた対人コミュニケーション理論に関する基礎的な理解をすることを目指す。欧米の文化に根差した研究哲学を基盤として作られた理論を日本文化の特徴(例:高コンテクスト、たての人間関係)を考えると、必ずしもそれらの理論がそのまま日本人同士の人間関係に適用できるとは限らない。そこで、理論を批判的な観点から考察する習慣と、能力を身につけることを目標とする。				
【講義概要】 コミュニケーション研究者としての第一歩を記す講義であることを念頭に、さまざまな理論を客観的、また批判的な精神でそれぞれの理論の特徴を学ぶ。また、理論を作る(theorizing)も人間だけが持つシンボル活動の一環であることを再認識しつつ、「研究する」、「理論を作る」ということの意味を考えながら、多くの文献にあたり、長期間に渡って持続することができる研究テーマを見出すことができるよう、努力する。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	Interpersonal communication overview			
2	Social penetration theory			
3	Uncertainty reduction theory			
4	Coorinated management of meaning			
5	Symbolic interactionism			
6	Relational dialectics			
7	Face management theory			
8	Cognitive dissonance			
9	Social judgment theory			
10	Elaboration likelihood model			
11	Expectancy violations theory			
12	Communication accommodation theory			
13	Interpersonal deception theory			
14	Anxiety uncertainty management theory			
【テキスト】 Dainton, M. (2015). Applying communition theory for professional life. Thousand Oaks, CA: Sage. Littlejohn, S. W., & Foss, K. A. (2005). Theories of human communication. Belmont, CA: Wadsworth.				
【参考書・参考資料等】 国内外の主要学会(NCA・ICA・JCA・SIETARなど)が発行するジャーナルに投稿される最先端の研究論文				
【事前・事後学習、時間等】 事前にテキスト中指定された章で扱われる理論を読み、理解し、事後その「裏付け」として、ジャーナルに投稿された論文を最低1本読む。				
【課題の種類・内容】 理論をパラフレーズしたペーパーを提出し、口頭で発表する。				
【課題に対するフィードバックの方法】 ペーパー、口頭発表共にできるだけ迅速、あるいはその場で評価する。また、口頭発表での議論、質疑応答も評価の対象とするので、適宜フィードバックする。				
【成績評価方法・基準】 Observation papers.....70% Class discussions.....30%				
【履修上の注意】				

2022年度 大学院シラバス

文学研究科 英文学専攻

講義科目名	コミュニケーション学演習Ⅱ		通年・前期・後期 通年	単位数 4	使用言語 その他または複数言語
担当教員名	宮原 哲				
【講義の到達目標及びテーマ】					
「研究」が人間にのみ可能なコミュニケーション活動であることを理解し、個人が「問題」と考えることに解を導く過程の特性を理解し、効果的に実践すること。					
【講義概要】					
コミュニケーション研究は、シンボル活動としての研究の対象を人間が社会で実践するコミュニケーションを対象として行うという意味で、二重の「コミュニケーション」を行うということを理解する。その上で、これまでに行われてきたコミュニケーション研究の歴史的変遷に目を向け、劇的に環境が変化している今日の社会での営みの中で生じるコミュニケーション、人間関係上の諸問題に対して問題解決思考を適用する。					
【講義計画内容】					
No.	講義計画	(担当者)	No.	講義計画	(担当者)
1	Fundamentals of theory and theorizing		15	Overview of conducting qualitative studies	
2	Inquiry as a symbolic activity		16	Sampling	
3	Attitudes towards "truth"		17	Ethnography	
4	History of communication research		18	Ethnography (cont'd)	
5	History of communication research (cont'd)		19	Interviewing	
6	Philosophical issues in communication research		20	Interviewing (cont'd)	
7	Philosophical issues in communication research (cont'd)		21	Data interpretation	
8	Philosophical issues in communication research (cont'd)		22	Grounded theory	
9	Issues in communication research in Japan		23	Grounded theory (cont'd)	
10	Issues in communication research in Japan (cont'd)		24	Critical approach	
11	Nature of qualitative communication research		25	Qualitative inquiry in interpersonal communication	
12	Literature review		26	Qualitative inquiry in family communication	
13	Research design: asking research question(s)		27	Qualitative inquiry in organizational communication	
14	Creating and choosing appropriate method of observation		28	Qualitative inquiry in health care communication	
【テキスト】					
Griffin, E., Ledbetter, A., & Sparks, G. (2015). A first look at communication theory. New York: McGraw-Hill. (指定図書)および、コミュニケーション研究に関する、また研究そのものを報告するジャーナルの論文を適宜指定する。					
【参考書・参考資料等】					
【事前・事後学習、時間等】					
コミュニケーション学の最先端のジャーナル(例: Human Communication Research, Communication Monographs)に掲載される論文を読み、その内容をまとめ自分のデータベースを構築する習慣をつける。理論の理論(メタ理論)の研究を行うので、研究方法を実際に用いた学術論文を一本でも多く読む。 授業で取り上げた理論、研究方法を自らが関心を持つ領域で応用できるよう、あるいはそれらを批判的な態度、姿勢で考察する習慣を身につけられるよう、一本でも多くの最先端の論文を読み、データベース(annotated bibliography)を作る。					
【課題の種類・内容】					
【課題に対するフィードバックの方法】					
【成績評価方法・基準】					
Annotated Bibliography.....30% Literature Review Paper30% Research Method Paper.....40%					
【履修上の注意】					
新しく仕入れる情報(input)と、それを自分の知識に還元して発表する内容(output)は質・量ともに比例する、ということを考え、多くの論文を読んでこそ自分の論文執筆に必要な情報、動機、また表現能力を習得する心構えが成功のカギを握る。					

2022年度 大学院シラバス

文学研究科 英文学専攻

講義科目名	コミュニケーション学研究指導I		通年・前期・後期 通年	単位数 4	使用言語 その他または複数言語
担当教員名	宮原 哲				
【講義の到達目標及びテーマ】					
博士号取得に必要な研究論文の執筆を行うために、「研究」の意味と意義の哲学的理解を習得し、研究を行うのに実際に必要な手順（先行研究調査、方法論の確立、議論の方法、など）を指導する。					
【講義概要】					
前期は対人コミュニケーションの領域の代表的、かつ最先端の研究を把握、評価し、それらをもとに自らの研究課題を確定させる。後期の授業では、研究課題に最も適切な方法を考察、設定し、実際にデータ収集を行い、結果が持つ意味を考察し、研究論文を執筆する。					
【講義計画内容】					
No.	講義計画	(担当者)	No.	講義計画	(担当者)
1	Meaning of academic inquiry		15	Qualitative data analysis	
2	Traditions of academic inquiry in communication		16	Writing a convincing paper	
3	Introduction to qualitative research		17	Presenting a concise and convincing paper	
4	Theoretical traditions of qualitative research		18	Research in rhetoric	
5	Planning research projects		19	Research in rhetoric	
6	Planning research projects		20	Research in phenomenology	
7	Implementing research projects		21	Research in phenomenology	
8	Implementing research projects		22	Research in socioculutral tradition	
9	Participation, observation and recording		23	Research in socioculutral tradition	
10	Participation, observation and recording		24	Research in sociopsychological tradition	
11	Interviewing		25	Research in sociopsychological tradition	
12	Interviewing		26	Research in critical tradition	
13	Interviewing		27	Research in critical tradition	
14	Qualitative data analysis		28	Research in cross-cultural communication	
【テキスト】					
Professional academi articles pubulished in communication-related journals will be the main source of research. The students will also be required to keep themselves abreast of the updated development in the field by familiarizing themselves with the latest publication of professional literature.					
【参考書・参考資料等】					
【事前・事後学習、時間等】					
コミュニケーション学の最先端のジャーナル(例: <i>Human Communication Research</i> , <i>Communication Monographs</i>)に掲載される論文を読み、その内容をまとめ自分のデータベースを構築する習慣をつける。理論の理論(メタ理論)の研究を行うので、研究方法を実際に用いた学術論文を一本でも多く読む。読んだ論文の内容をパラフレーズして、いつでもそれを自分の研究論文に生かせるよう、詳しい文献リスト(annotated bibliography)を作る。					
【課題の種類・内容】					
レポート提出、口頭発表					
【課題に対するフィードバックの方法】					
【成績評価方法・基準】					
Paraphrased paper.....50% Research Proposal.....40% Presentation.....10%					
【履修上の注意】					
新しく仕入れる情報(input)と、それを自分の知識に還元して発表する内容(output)は質・量ともに比例する、ということを考え、多くの論文を読んでこそ自分の論文執筆に必要な情報、動機、また表現能力を習得する心構えが成功のカギを握る。					

2022年度 大学院シラバス

文学研究科 英文学専攻

講義科目名	コミュニケーション学特殊研究Ⅳ	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期	2	日本語
担当教員名	オルソンD.L.			
【講義の到達目標及びテーマ】 この特集研究では歴史学研究の方法論と多くの学問で使う描写的研究の方法論を学び、その研究方法(能力)を身につける。特にコミュニケーション学の研究する時、この方法論を同当てはまるかを理解して、各自の研究でつけるように能力を育成する。				
【講義概要】 コミュニケーション学研究する時に(特にレトリックですが、その限りではない)、そのコミュニケーションのコンテキスト(状況)に起っている事(現象)を理解する必要があります。またその起っている事(現象)に関するよそから出されている文書、記録等の正確性を把握する必要があります。それにあたってこの特集研究で歴史学の研究方法論と描写的研究法保父論を勉強しながら公に出ているテキスト、その他の文書の正確性を点検、また実際に起っていること(現象)を描写的説明する訓練をします。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	Introduction and course overview			
2	The Historian's Work			
3	The ABC of Technique			
4	The Searcher's Mind and Values			
5	Finding the Facts			
6	Verification			
7	Handling Ideas			
8	Truth and Causation			
9	Pattern, Bias and the Great Systems			
10	Historians in Europe and America			
11	Relic Hunting, Anti-History, and Social Science			
12	Writing: Organizing			
13	The Art of Quoting and translating			
14	Presentations			
【テキスト】 The Modern Researcher, 6th Edition, Jacques Barzun and Henry F. Graff (Wadsworth:2004). And several other reading				
【参考書・参考資料等】				
【事前・事後学習、時間等】				
【課題の種類・内容】				
【課題に対するフィードバックの方法】				
【成績評価方法・基準】 Grades will be based on periodic homework and a final report				
【履修上の注意】 なし				

2022年度 大学院シラバス

文学研究科 英文学専攻

講義科目名	コミュニケーション学演習Ⅳ	通年・前期・後期	単位数	使用言語	
		通年	4	日本語	
担当教員名	オルソンD.L.				
【講義の到達目標及びテーマ】					
20世紀からを中心にレトリック理論の発展を理解の上にその理論に伴う分析方法論を身に付ける。					
【講義概要】					
毎回違うレトリックの学者の理論を考慮しながら分析方法論を検討します。また同じテキストを分析した、違う方法論を使った学者の論文をよみながら、その方法論によってどんなところが注目され、結論にあたってどんな違いがでてくるかを議論していきます。これに踏まえて、分析するときどんな分析方法を選択するかを議論します。					
【講義計画内容】					
No.	講義計画	(担当者)	No.	講義計画	(担当者)
1	Course introduction and overview		15	I.A. Richards	
2	What is criticism and theory		16	Richard Weaver	
3	Tradional Aristitelean Approach		17	Stephen Toulmin	
4	The Rhetorical Act		18	Chaim Perelman	
5	The Rhetorical Situation		19	Ernesto Grassi	
6	The Speaker		20	Kenneth Burke	
7	Case Study In Criticism: Newman		21	Michel Foucault	
8	Case Study In Criticism: Stelzner		22	Hurgen Habermas	
9	Case Study In Criticism: Campbell		23	Challenges to the Rhetorical Tradition	
10	The Situation in Rhetoric		24	Genre in Rhetoric	
11	The Second Persona		25	Rhetoric in New Media	
12	Fantasy Theme Analysis		26	Visual Rhetoric	
13	Lincoln at Cooper		27	Mediated Rhetoric	
14	Presentations		28	Presentations	
【テキスト】					
Jame Andrews, <i>The Practice of Rhetorical Criticism</i> , and section of several other texts and papers					
【参考書・参考資料等】					
必要に応じて指示します。					
【事前・事後学習、時間等】					
If students have never studied rhetoric you should read a basic text about rhetoric, such as Karlyn Kohrs Campbell, <i>The Rhetorical Act</i>					
【課題の種類・内容】					
【課題に対するフィードバックの方法】					
【成績評価方法・基準】					
Research projects and presentation of each student's research					
【履修上の注意】					
なし					

2022年度 大学院シラバス

文学研究科 英文学専攻

講義科目名	コミュニケーション学特殊研究 V	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期	2	日本語
担当教員名	清宮 徹			
【講義の到達目標及びテーマ】				
社会科学の基本的パラダイムを理解することを第一の目的とする。ポスト構造主義や社会構成主義など新しいパラダイムを学び、伝統的な実証主義的パラダイムとの違いを理解する。社会と個人の関係について、反省的に思考(問題化)できるような能力をつける。特に方法論の強化を目指し、ディスコース的視座によるデータ収集とその分析アプローチを習得する。批判的な視座をもとに、現代社会と組織の複雑な諸問題を批判的に分析できる能力をつけてもらいたい。				
【講義概要】				
コミュニケーション学の一つの大きな研究領域である「組織コミュニケーション」を学ぶ。とくにポストモダン的な組織コミュニケーション研究を形成するパラダイムの理解が肝要でアウル。今学期は特に、組織ディスコース(組織にける語りの役割)の理論とともにデータ分析の側面を、教科書をもとに学んでいく。授業では、日本語の文献(教科書)と英語の文献(参考文献)を使う。また、課題を通じて、実際のデータ、あるいは事例を分析して理解を深める。学生の関心の強いテーマについてリサーチデザインを作成し、今後の研究に活かせる課題に取り組んでもらう。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	イントロ:コミュニケーション研究とは			
2	社会科学方法論とパラダイム(1):methodology			
3	社会科学方法論とパラダイム(2):poststructurism			
4	インターナショナルとは？インタビュー実践の認識論 (教科書1-2章)			
5	インタビュー調査の倫理的課題、研究計画 (教科書3-4章)			
6	インタビューの実践、多様な方法 (教科書5-6章)			
7	インタビューの質、データ化 (教科書7-8章)			
8	インタビュー・データの分析、研究の妥当性 (教科書9-10章)			
9	インタビュー調査の報告、将来研究 (教科書11-12章)			
10	質的研究、その特性とデータ (教科書1-2章)			
11	(教科書8章)フィールドノートを書く、テキストのコーディング (教科書3-4章)			
12	ディスコース分析、比較分析 (教科書5-6章)			
13	分析の質を考える、コンピュータ利用 (教科書7-8章)			
14	ソフトウェアの利用、分析の総合 (教科書9-10章)			
【テキスト】				
1) 教科書:スタイナー・クヴァール, 他(能智・徳田訳)『質的研究のための「インター・ビュー」』(新曜社, 2016) 2) 教科書:グラハム・R. ギブズ(砂上、他、訳)『質的データの分析』(新曜社, 2017)				
【参考書・参考資料等】				
Andrew D. Brown “The Oxford Handbook of Identities in Organizations” (Oxford University Press, 2020) 清宮徹『組織のディスコースとコミュニケーション』(同文館出版, 2019)				
【事前・事後学習、時間等】				
「講義計画」欄の各回の授業内容に記載されている教科書の該当ページを、講義前に必ず読んでくること。(1.5時間程度)				
【課題の種類・内容】				
(1)インタビュー調査:特定のテーマについてインタビュー調査を行い、その分析結果を発表する。 (2)テキストや参考文献の担当章について発表する。 (3)期末試験:事前に質問を提示するので、それについて調べて応えるtake-home exam。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
授業の中でインタビュー調査について発表し、その場でフィードバックする。				
【成績評価方法・基準】				
授業での参加態度:積極的な議論への参加 (20%) インタビュー調査レポート (30%) 期末試験 (50%)				
【履修上の注意】				

2022年度 大学院シラバス

文学研究科 英文学専攻

講義科目名	コミュニケーション学演習 V	通年・前期・後期	単位数	使用言語	
		通年	4	日本語	
担当教員名	清宮 徹				
【講義の到達目標及びテーマ】					
本講座は、「組織コミュニケーション」の体系的理解を目的とし、これをもとにした研究・調査が行える能力を向上させることを目指す。そのために、組織コミュニケーションのパラダイムの理解を深め、自らの研究の方法論的土台を作っていく。さらに、組織コミュニケーションの多様なトピックを視野に入れながら、分析の視点と手法を開発していく。					
【講義概要】					
今年度前期は、ディスコースに視座を置いた組織コミュニケーションを学ぶ。経営・組織を批判的なパラダイムから考察し、経営主義的前提に対するオルタナティブを考える。後期はこれを基に、マーケティングに関するディスコースを研究する。トピックとして、とくにジェンダー・マーケティングの問題に焦点を当てる。					
【講義計画内容】					
No.	講義計画	(担当者)	No.	講義計画	(担当者)
1	オリエンテーション: 組織コミュニケーションとは		15	第1章	
2	The Wood and Trees		16	第2章 マーケティングの批判的研究	
3	Doing discourse analysis from a critical perspective		17	第2章 マーケティングの批判的研究	
4	Organizing discourse data		18	第3章 権力と支配	
5	How language makes meaning		19	第3章 権力と支配	
6	Language and identity (1)		20	第4章 支配・管理的言説	
7	Language and identity (2)		21	第4章 支配・管理的言説	
8	Language and identity (3)		22	第5章 マネジリアル・マーケティング (1)	
9	Language and persuasion (1)		23	第6章 マネジリアル・マーケティング (2)	
10	Language and persuasion (3)		24	第6章 マネジリアル・マーケティング (2)	
11	Language and power (1)		25	第7章 いっそう磨き上げたマーケティングD	
12	Language and power (2)		26	第7章 いっそう磨き上げたマーケティングD	
13	Critiquing critical approaches		27	第8章 カスタマリズム	
14	Other issues in ODS		28	総括 マーケティングとディスコース	
【テキスト】					
Mautner, G., et al., "Discourse and management: Critical perspectives through the language lens" (Red Globe Press, 2016) スカーレン, P.,他. (折笠訳)『マーケティング・ディスコース』(学文社, 2010)					
【参考書・参考資料等】					
Andrew D. Brown (ed.). "The Oxford Handbook of Identities in Organizations" (Oxford University Press, 2020) 清宮徹『組織のディスコースとコミュニケーション』(同文館出版, 2019)					
【事前・事後学習、時間等】					
「講義計画」欄の各回の授業内容に記載されている教科書の該当ページを、講義前に必ず読んでくること。(1.5時間程度)					
【課題の種類・内容】					
(1)テキストや参考文献の担当章について発表する。 (2)共同研究プロジェクト: 特定のトピックについて、共同研究を実施する(特にデータ収集と分析、その考察)					
【課題に対するフィードバックの方法】					
授業の中でデータ収集や分析について発表し、その場でフィードバックする。					
【成績評価方法・基準】					
授業での参加態度: 担当章の発表 (30%) 共同研究レポート (70%)					
【履修上の注意】					
英語の文献を中心に進めます。留学生別科にも開講しているので、院生レベルの別科生が参加する可能性があります。					

2022年度 大学院シラバス

文学研究科 英文学専攻

講義科目名	コミュニケーション学特殊研究区	通年・前期・後期 後期	単位数 2	使用言語 日本語
担当教員名	山元里美			
【講義の到達目標及びテーマ】				
海外における英語の政策に関する最新の論文を精読する。				
【講義概要】				
主にJournal of Multilingual and Multicultural Developmentからの論文を教材として扱い、各自の修士論文の先行研究を作成する手助けとなるように授業を運営する。				
No.	講義計画			
1	イントロダクション			
2	Lai, Meee Ling. 2021. "English Linguistic Neo-Imperialism: A Case of Hong Kong." 42(4): 398-412. (1)			
3	Lai, Meee Ling. 2021. "English Linguistic Neo-Imperialism: A Case of Hong Kong." 42(4): 398-412. (2)			
4	Lee, Mun Wooo. 2021. "Language Ideologies of Korean Mothers with Preschool-aged Children: Comparison, Money, and Early Childhood English Education." 42(7): 637-649(1)			
5	Lee, Mun Wooo. 2021. "Language Ideologies of Korean Mothers with Preschool-aged Children: Comparison, Money, and Early Childhood English Education." 42(7): 637-649(2)			
6	Lee, Mun Wooo. 2021. "Language Ideologies of Korean Mothers with Preschool-aged Children: Comparison, Money, and Early Childhood English Education." 42(7): 637-649(3)			
7	Barokos, Elizabeth. 2019. "Elite Multilingualism: Discourses, Practices, and Debates." 40(5): 361-374 (1)			
8	Barokos, Elizabeth. 2019. "Elite Multilingualism: Discourses, Practices, and Debates." 40(5): 361-374 (2)			
9	Xing, Congcong. 2022. "Problematixing English Monolingualism in the 'Multicultural' University: A Bourdieusian Study of Chinese International Research Students in Australia." オンライン刊行段階（1）			
10	Xing, Congcong. 2022. "Problematixing English Monolingualism in the 'Multicultural' University: A Bourdieusian Study of Chinese International Research Students in Australia." オンライン刊行段階（2）			
11	Xing, Congcong. 2022. "Problematixing English Monolingualism in the 'Multicultural' University: A Bourdieusian Study of Chinese International Research Students in Australia." オンライン刊行段階（3）			
12	Song, Ge.2020. "Conflicts and Complexities: A Study of Hong Kong's Bilingual Street Signs from Funtional Perspective on Translation." 31(10): 886-898 (1)			
13	Song, Ge.2020. "Conflicts and Complexities: A Study of Hong Kong's Bilingual Street Signs from Funtional Perspective on Translation." 31(10): 886-898 (2)			
14	まとめ			
【テキスト】				
Moodle上にアップする				
【参考書・参考資料等】				
随時提示				
【事前・事後学習、時間等】				
【課題の種類・内容】				
【課題に対するフィードバックの方法】				
授業内に行う				
【成績評価方法・基準】				
各論文のレジюме作成（75％）と最終レポート（25％）				
【履修上の注意】				
初回の授業には必ず出席してください。ご自分の研究テーマを簡単に説明していただきます。				

2022年度 大学院シラバス

文学研究科 英文学専攻

講義科目名	コミュニケーション学特殊研究XI	通年・前期・後期 前期	単位数 2	使用言語 その他または複数言語
担当教員名	Justyna Weronika Kasza			
【講義の到達目標及びテーマ】				
This class explores the relevance of world literature to cross-cultural research in present-day humanities. We discuss how world literature provides an insight into world's changing and colliding cultures. Students learn how to critically evaluate texts from diverse literary, cultural and linguistic backgrounds, and share information on how people act, communicate and perceive world. The objective of the module is to examine how most recent social or political issues, including language, nation, ethnicity, gender, ethics, minorities are addressed by literary texts. We use our analytical and linguistic skills that shed light on the structures and functioning of a wide range of discursive practices that form individuals and cultures. This module offers students to develop a wealth of transferable skills and how to apply various interdisciplinary research methods: literary theories, social sciences, anthropology, cultural studies, linguistics (philology), translation studies.				
【講義概要】				
Students will learn how understand selected aspects of the contemporary society and culture based on literary sources, as well as analyse critically and evaluate them in academic English.				
【講義計画内容】				
No	講義計画			
1	Course orientation: world literature and communication studies (theories and research methods)			
2	What is literature? (Texts: Walter Ong, <i>Orality and Literacy</i> and David Damrosch, <i>What is World Literature</i>)			
3	Whose 'world': regional, national, global (Texts: Caryl Philips, <i>A Distant Shore</i> ; Flannery O'Connor, <i>The Regional Writer</i>)			
4	Modes of Reading: translation, circulation, adaptation (Texts: David Damrosch, "Reading in Translation"; Paul Ricoeur "Linguistic Hospitality")			
5	Grounds for Comparison: Akutagawa Ryūnosuke/Nikolai Gogol; Edogawa Rampo/Edgar Allan Poe; Murakami Haruki/J.D. Salinger			
6	World literature and Gender (Texts: Elif Shafak, <i>The Black Milk</i> ; Kawakami Mieko <i>Breasts and Eggs</i>)			
7	The Ineffable: World Literature and the Narratives of Disaster (Texts: Tawada Yoko, <i>The Island of Life</i> ; Markiyan Kamysh, <i>A Stoll to the Zone</i> ; Mohsin Hamid, <i>The Reluctant Fundamentalist</i>)			
8	The Other: World Literature's response to Migration and Displacement: Xiaolu Guo, <i>Nine Continents</i> ; Khaled Hosseini, <i>The Kite Runner</i> ; Zadie Smith, <i>White Teeth</i>			
9	Reading across Time (Texts: Victor Pilevin, <i>Buddha's Little Finger</i> ; Orhan Pamuk, <i>The Museum of Innocence</i>)			
10	Reading and Writing Across Languages: (Texts: Tawada Yoko, <i>Where Europe Begins</i> ; Mizumura Minae, <i>Shishosetsu from Left to Right</i>)			
11	World Literature and the Ethics: Endō Shūsaku <i>The Sea and Poison</i> ; Ian McEwan, <i>Amsterdam</i> ; J. M. Coetzee, <i>Disgrace</i>			
12	Memory, war and trauma (Texts: Alexander Solzhenitsyn, <i>The Gulag Archipelago</i> ; Irene Nemirovsky, <i>Suite Francaise</i> ; Viktor Frankl, <i>Man's Search for Meaning</i>)			
13	Literary response to pandemics (Text: Alber Camus <i>The Plague</i> and Ali Smith <i>Summer</i>)			
14	Course summary and preparation for final essay			
【テキスト】				
No handbook required; all materials will be provided by the course instructor				
【参考書・参考資料等】				
【事前・事後学習、時間等】				
Students are required to read assigned texts before class and keep notes (Book Journal)				
【課題の種類・内容】				
We will discuss key elements of literary texts and explore how they contribute to cross-cultural communication.				
【課題に対するフィードバックの方法】				
Regular feedback will be provided during class discussion				
【成績評価方法・基準】				
Group discussions and final essay on selected topics from reading list				
【履修上の注意】				
なし				

2022年度 大学院シラバス

文学研究科 英文学専攻

講義科目名	応用日本語研究Ⅱ	通年・前期・後期 後期	単位数 2	使用言語 日本語
担当教員名	Justyna Weronika Kasza			
【講義の到達目標及びテーマ】				
【キーワード: ディスカッション、プレゼンテーション】 この授業では大学院での研究生活に必要なアカデミックスキルについて、前期の基礎をもとに他者への伝達という点に重きをおいて発展的に進める。 到達目標は、1) 特定のトピックについて即興で意見交換ができる、2) 原稿を見ないでインタラクティブなプレゼンテーションができる、3) 抽象的ではない本質的な質問ができることの3つである。				
【講義概要】				
この授業では大学院での研究生活に必要なアカデミックスキルについて学ぶことを最大の目的としている。そのため、授業では、実際の研究活動を想定して進める。ゼミ形式でのディスカッションを通し、自分の考えを精緻化し、プレゼンテーションの形で伝達するまでを射程とする。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	授業の説明			
2	トピックに基づいたディスカッション（テーマ: 日本社会・政治）			
3	トピックに基づいたディスカッション（テーマ: 日本の国際関係）			
4	トピックに基づいたディスカッション（テーマ: 日本文化）			
5	トピックに基づいたディスカッション（テーマ: 日本とグローバル化）			
6	トピックに基づいたディスカッション（テーマ: 日本は世界でどう見られているのか・日本のイメージ）			
7	ミニプレゼン			
8	プレゼンテーションとは			
9	プレゼンテーションのスライドづくり			
10	インタラクティブなプレゼンテーションに必要なもの			
11	質疑応答にどのように対応するか			
12	プレゼン作成			
13	プレゼン作成			
14	最終発表			
【テキスト】				
酒井聡樹(2018)『これから学会発表する若者のために 第2版 ―ポスターと口頭のプレゼン技術―』共立出版				
【参考書・参考資料等】				
山田智久(2017)『ICTの活用 第二版』くろしお出版				
【事前・事後学習、時間等】				
授業の前と後に出される課題(予習課題と復習課題)をすべて行った上で、毎回の授業に参加すること。 予習課題＋復習課題＝約90分である。				
【課題の種類・内容】				
【課題に対するフィードバックの方法】				
【成績評価方法・基準】				
授業内での発話量: 30点 毎回の授業後のミニッツペーパー: 2点 × 10回＝20点 ライティング成果物: 50点（ルーブリックに基づく）				
【履修上の注意】				

2022年度 大学院シラバス

文学研究科 英文学専攻

講義科目名	英語学特殊研究XI	通年・前期・後期 後期	単位数 2	使用言語 日本語
担当教員名	横溝 紳一郎			
【講義の到達目標及びテーマ】				
達成すべき到達目標は、以下の通りである。				
1. 豊かで鋭い言語感覚を習得する。				
2. 自己のことばを科学的に観察する。				
3. 日本語学の基礎的知識を体得する。				
4. 1～3の目標を達成することにより、英語学のより深い理解につなげる。				
【講義概要】				
日常の身の回りの言語表現を取り上げ、そのしぐみを歴史的・社会的・地域的背景とともに考察することによって、豊かで鋭い言語感覚を習得し、自己のことばを科学的に観察することが出来る能力を養うとともに、日本語学の基礎的知識と研究法を体得することを目標とする。この授業では、担当教員による講義だけでなく、個人活動、ペア活動、グループ活動、等の活動を組み合わせることで、「日本語学について考える」活発な学習環境を提供する。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	オリエンテーション、言語としての日本語			
2	日本語の音声(1):音、音節、リズム、母音、子音等			
3	日本語の音声(2):半母音、音素、母音の無声化等			
4	日本語の音声(3):アクセント、イントネーション等			
5	日本語の文法(1):国文法との違い、品詞、動詞の活用、日本語の文法的特徴等			
6	日本語の文法(2):主語と主題、こそあど、形容詞、希望・欲求の表現、存在文と所在文等			
7	日本語の文法(3):自動詞・他動詞、～ている、可能表現、使役表現、受け身表現等			
8	日本語の文法(4):授受表現、助詞等			
9	文字・表記(1):常用漢字、筆順、送り仮名、現代仮名遣い等			
10	文字・表記(2):外来語、ローマ字、符号、文字の歴史等			
11	日本語の語彙			
12	意味論・語用論			
13	ことばと社会のかかわり			
14	まとめ			
【テキスト】				
『新・はじめての日本語教育1』(高見澤孟監修、アスク)、教員が作ったスライドとプリント等。				
【参考書・参考資料等】				
初回の授業でお知らせする。				
【事前・事後学習、時間等】				
授業の前と後に出される課題(予習課題と復習課題)をすべて行った上で、毎回の授業に参加すること。 予習課題＋復習課題＝約90分である。				
【課題の種類・内容】				
初回の授業でお知らせする。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
初回の授業でお知らせする。				
【成績評価方法・基準】				
出席を含む授業態度(50%)と、レポート(50%)により評価する。				
欠席1回につき、「出席を含む授業態度」が5パーセントずつ減点される。				
＊欠席3回で自動的に不可となり、遅刻・早退は2回で欠席1回とみなされるので、正当な理由があり欠席・遅刻・早退する／した場合は、必ず届け出ておくこと。				
【履修上の注意】				
1. 座席は指定し、学期中に席替えを行う予定である。				
2. 出席と積極的な参加を最重視する。				
3. 授業中の私語・スマホ使用は厳禁である。				

2022年度 大学院シラバス

文学研究科 英文学専攻

講義科目名	英語学演習XI	通年・前期・後期	単位数	使用言語	
		通年	4	日本語	
担当教員名	横溝 紳一郎				
【講義の到達目標及びテーマ】					
前期の到達目標 1. 外国語教師に求められる資質と自己成長の方法について説明ができる。 2. 導入・文法説明の方法について説明ができる。 3. 発音指導の方法について説明ができる 4. スピーキングの指導法について、理論面と実践面の両面で、重要なポイントが説明できる。 5. リスニングの指導法について、理論面と実践面の両面で、重要なポイントが説明できる。 6. ライティングの指導法について、理論面と実践面の両面で、重要なポイントが説明できる。 7. リーディングの指導法について、理論面と実践面の両面で、重要なポイントが説明できる。 8. 4技能の統合指導法について、理論面と実践面の両面で、重要なポイントが説明できる。 後期の到達目標 1. 外国語教師の役割について説明ができる。 2. 教材と学習環境の大切さについて説明ができる。 3. 教科書の使い方について説明ができる。 4. 多様な学習者を受け止め、その多様性への対応の大切さについて説明ができる。 5. 学習者との信頼関係づくりの大切さについて説明ができる。 6. 教師としての自分の言動を振り返るポイントについて説明ができる。 7. アーティキュレーションの大切さと実現方法について説明ができる。 8. 評価の位置づけ・重要性と、テスト作成のポイントについて説明ができる。 9. 自律的学習者を育てる方法について説明ができる。 10. 学習支援者としての心構えについて説明ができる。					
【講義概要】					
前期の授業概要 外国語教育の基礎となる、導入と文法説明、発音指導、4技能「スピーキング」「リスニング」「ライティング」「リーディング」の指導法、およびその統合等のテーマに関して、包括的な講義を行う。 後期の授業概要 外国語教育の現場で生じる様々な出来事に適切に対処するために必要不可欠な技術・知識について、包括的に講義を行う。					
【講義計画内容】					
No.	講義計画	(担当者)	No.	講義計画	(担当者)
1	オリエンテーション、外国語教師の資質	横溝	15	教材と学習環境(1):カード、小道具、歌、視覚教材、映像教材等	横溝
2	導入	横溝	16	教材と学習環境(2):辞書、生教材、黒板、教室外活動等	横溝
3	文法説明	横溝	17	教科書の使い方	横溝
4	発音指導:子音、母音、アクセント、イントネーション等の指導	横溝	18	多様な学習者の理解	横溝
5	スピーキングの指導(1):ドリル活動、コンテキストの中での練習等	横溝	19	多様な学習者への対応	横溝
6	スピーキングの指導(2):ペアワーク、ロールプレイ等	横溝	20	学習者との信頼関係づくり(1):指名等	横溝
7	スピーキングの指導(3):スピーチ等	横溝	21	学習者との信頼関係づくり(2):アイ・コンタクト、学習者間トラブルへの対処等	横溝
8	リスニングの指導(1):リスニング活動の種類等	横溝	22	教師の言動の振り返り(1):姿勢、立ち位置、身体の向き、ジェスチャー、表情等	横溝
9	リスニングの指導(2):リスニングの具体的指導法等	横溝	23	教師の言動の振り返り(2):説明、指示、質問・発問等	横溝
10	ライティングの指導(1):文字の指導	横溝	24	教師の言動の振り返り(2):肯定的／否定的フィードバック、ペアワーク・グループワークのポイント等	横溝
11	ライティングの指導(2):文、文章の指導	横溝	25	アーティキュレーションと評価(1)	横溝
12	リーディングの指導(1):音読、母語への翻訳等	横溝	26	評価(2):テスト作成のポイント等	横溝
13	リーディングの指導(2):速読、シャドーイング等	横溝	27	自律的学習者を育てる方法	横溝
14	4技能の統合、まとめ	横溝	28	教師の役割再考、学習支援者としての心構え、まとめ	横溝
【テキスト】					
前期 『成長する教師のための日本語教育ガイドブック 上巻』川口義一・横溝紳一郎(ひつじ書房) 後期 『クラスルーム運営』横溝紳一郎(くろしお出版)					
【参考書・参考資料等】					
授業中に指示する。					
【事前・事後学習、時間等】					
「講義計画」欄の各回の授業内容に記載されている教科書の該当ページを、講義前に必ず読み、学んだこと・疑問に思ったことなどをまとめておくこと。(1.5時間程度)					
【課題の種類・内容】					
初回の授業でお知らせする。					
【課題に対するフィードバックの方法】					
初回の授業でお知らせする。					
【成績評価方法・基準】					
出席を含む授業態度(50%)と、レポート(50%)により評価する。 欠席1回につき、「出席を含む授業態度」が5パーセントずつ減点される。 * 欠席5回で自動的に不可となり、遅刻・早退は2回で欠席1回とみなされるので、正当な理由があり欠席・遅刻・早退する／した場合は、必ず届け出ておくこと。					
【履修上の注意】					
1. 出席と積極的な参加を重視します。(授業中の私語・スマホ使用は厳禁！) 2. これまでの学習者としての外国語学習体験や、外国語を教えた体験を振り返りながら、授業に参加してください。					

2022年度 大学院シラバス

文学研究科 英文学専攻

講義科目名	応用日本語研究Ⅰ	通年・前期・後期 前期	単位数 2	使用言語 日本語
担当教員名	山田智久			
【講義の到達目標及びテーマ】				
【キーワード:アカデミックスキル、剽窃、ジャーナル、研究計画書】 この授業では大学院での研究生活に必要なアカデミックスキルについて学ぶことを最大の目的とする。 到達目標は、1)ジャーナルから最新の研究動向を追うことができる、2)情報を整理できる、3)適切に引用ができる、4)自分の考えを誤記のない日本語で書けることの4つである。				
【講義概要】				
この授業では大学院での研究生活に必要なアカデミックスキルについて学ぶことを最大の目的としている。そのため、授業では、実際の研究活動を想定して進める。ジャーナルから最新の研究動向を調べ、それを記録し、自身の研究計画書を作成するまでを射程とする。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	授業についての説明／日本語レベルチェック			
2	ラポール形成／授業内容の調整			
3	リサーチメソッド(スタディスキルズとノートテイキング)			
4	リサーチメソッド(リーディング:研究のための読み方)			
5	リサーチメソッド(情報収集:ジャーナルとは)			
6	リサーチメソッド(情報の整理と剽窃／エンドノートなど)			
7	実践課題:特定の情報を見つけて整理する			
8	リサーチメソッド(ICTを活用した学習の進め方)			
9	論文を読む:要素分解／構成のいろいろ			
10	論文を読む:体裁の確認／参考文献の書き方			
11	アカデミック・ライティング(研究要旨を書く)			
12	アカデミック・ライティング(先行研究を書く)			
13	アカデミック・ライティング(先行研究を書く)			
14	アカデミック・ライティング(研究計画書を書く)			
【テキスト】				
教員が作成する。				
【参考書・参考資料等】				
酒井聡樹(2015)『これから論文を書く若者のために 究極の改訂版』共立出版				
【事前・事後学習、時間等】				
授業の前と後に出される課題(予習課題と復習課題)をすべて行った上で、毎回の授業に参加すること。 予習課題＋復習課題＝約90分である。				
【課題の種類・内容】				
【課題に対するフィードバックの方法】				
【成績評価方法・基準】				
授業内での発話量:30点 毎回の授業後のミニツツペーパー:2点×10回＝20点 ライティング成果物:50点(ルーブリックに基づく)				
【履修上の注意】				

2022年度 大学院シラバス

文学研究科 英文学専攻

講義科目名	英語学特殊研究XIII	通年・前期・後期 後期	単位数 2	使用言語 日本語
担当教員名	山田智久			
【講義の到達目標及びテーマ】				
【キーワード:ICT、教育工学、教師の発達】				
本授業では、これからの言語教育において必要なICTリテラシーについてハンズオン型で学んでいく。到達目標は次の3点とする。				
1) ICT活用の功罪について理解できる。				
2) これからの教師に必要なICTリテラシーについて教育現場を想定して使えるようになる。				
3) ICTに関するわからないことを自分の力で調べて解決策を見つけることができるようになる。				
【講義概要】				
現在において、テクノロジーと教育は切り離せないものとなっている。他方、テクノロジーに振り回されて授業の本質を見失っている教師も多い。本授業では、これからの言語教育において必要なICTリテラシーについて批判的に学んでいくことを目的とする。その過程で言語教育に必要なICTリテラシーを学んでいくことを目指す。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	授業で使うICTリテラシーの基礎			
2	検索力を付ける(アルゴリズムの仕組み)			
3	授業資料を作る(PowerPoint、Word)			
4	学生と連絡を取る(Slack)			
5	授業資料を共有する(Dropbox、GoogleDrive)			
6	レポート提出を管理する(Dropbox)			
7	クイズを作る(GoogleForms)			
8	動画を共有する(YouTube)			
9	学生の動機づけを高めるアプリを見つける			
10	資料を共有する(GoogleDocument)			
11	テキストマイニングでデータを分析する(KHCoder)			
12	ウェブで教室運営をする(GoogleClassroom)			
13	デバイスをメンテナンスする			
14	まとめ			
【テキスト】				
山田智久(2017)『ICTの活用 第二版』くろしお出版				
山田智久・伊藤秀明編(2021)『オンライン授業を考える』くろしお出版				
【参考書・参考資料等】				
適宜紹介する。				
【事前・事後学習、時間等】				
授業の前と後に出される課題(予習課題と復習課題)をすべて行った上で、毎回の授業に参加すること。				
予習課題＋復習課題＝約90分である。				
【課題の種類・内容】				
【課題に対するフィードバックの方法】				
【成績評価方法・基準】				
授業内での課題再現:60点				
最終レポート:20点				
ICT活用授業成果物:20点(ルーブリックに基づく)				
【履修上の注意】				
ことばの教師を目指す学生の履修が望ましいが、テクノロジーに興味がある学生の履修も歓迎する。				
授業ではノートPCやタブレット型端末を使う。				

2022年度 大学院シラバス

文学研究科 英文学専攻

講義科目名	英語学演習XIII	通年・前期・後期 通年	単位数 4	使用言語 日本語
担当教員名	山田智久			
【講義の到達目標及びテーマ】				
【キーワード】第二言語習得理論、ビリーフ、意思決定、教育工学、協働学習 本授業は、ことばの教師を科学的に捉えることを狙いとする。そのため、到達目標は次の3点とする。 1) 言語教育の歴史的変遷について自分の学習と照らして理解できる。 2) 教師の意思決定について理解する。 3) これからのことばの教師に必要な意識とスキルについて自分なりの答えを出すことができる。				
【講義概要】				
本授業は、ことばの教師を科学的に捉えることを狙いとする。したがって、言語学習の歴史的変遷について理解した上で、授業観の変遷、教師の意思決定、教師のビリーフ、21世紀型スキル、協働学習、インストラクショナルデザインについて学ぶ。このことで、ことばの教師としてどのような点に留意すべきかについて自律的に考えられる学生の育成を目指す。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画	No.	講義計画	
1	授業の説明／ニーズ調査	15	教育観の変遷～21世紀型スキル～	
2	ラポール形成	16	協働学習とは	
3	Language learning in Childhood	17	協働学習の技法(話し合いの技法)	
4	Second language learning	18	協働学習の技法(教え合いの技法)	
5	Individual Differences in second language learning	19	協働学習の技法(問題解決の技法)	
6	Explaining second language learning	20	PBL型授業を効果的に進めるには	
7	Popular ideas about language learning revisited	21	インストラクショナルデザインとは	
8	良い教師像を描く	22	アクティブ・ラーニングとは	
9	教師の役割	23	テクノロジーが変えるこれからの教室	
10	教師の成長過程	24	オンライン授業を考える1	
11	教師の意思決定	25	オンライン授業を考える2	
12	教師のビリーフとその変化	26	ディスカッション1	
13	ディスカッション	27	ディスカッション2	
14	Timed Essay	28	Timed Essay	
【テキスト】				
Lightbown and Spada (2013) <i>How Languages are Learned. Fourth Edition</i> UK: OUP エリザベス＝バークレイほか(2005)『協働学習の技法』ナカニシヤ出版 山田智久・伊藤秀明編(2021)『オンライン授業を考える』くろしお出版				
【参考書・参考資料等】				
柴谷晋(2015)『ラグビー日本代表監督 エディー・ジョーンズの言葉 世界で勝つための思想と戦略』ベースボール・マガジン社				
【事前・事後学習、時間等】				
授業の前と後に出される課題(予習課題と復習課題)をすべて行った上で、毎回の授業に参加すること。 予習課題＋復習課題＝約2時間である。				
【課題の種類・内容】				
毎回の授業で課題文献が課される。それをもとに授業ではディスカッション及びチュートリアルが行われる。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
【成績評価方法・基準】				
毎回の授業での発言量:40% Timed Essay:60点				
【履修上の注意】				
非常に負荷がかかる授業ですが、将来教師を目指している方、社会が今後どのように変化していくか、などに興味がある学生の履修を歓迎します。				

西南学院大学 大学院課 大学院事務室

〒814－8511 福岡市早良区西新6丁目2番92号

TEL 092－823－3368

FAX 092－823－3348

e-mail gra-jimu@seinan-gu.ac.jp

